

# CA ARCserve® Backup for Windows

Agent for Microsoft SharePoint Server  
ユーザガイド

r16



このドキュメント(組み込みヘルプ システムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」)は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社(以下「CA」)により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2011 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルセットは、以下の CA Technologies 製品を参照します。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- CA ARCserve® Assured Recovery™
- CA ARCserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Linux Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- CA ARCserve® Backup for UNIX Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA ARCserve® Backup Patch Manager
- CA ARCserve® Backup UNIX/Linux Data Mover
- CA ARCserve® Central Host-Based VM Backup
- CA ARCserve® Central Protection Manager
- CA ARCserve® Central Reporting
- CA ARCserve® Central Virtual Standby
- CA ARCserve® D2D
- CA ARCserve® D2D On Demand
- CA ARCserve® High Availability
- CA ARCserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの **Web** サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

## マニュアルの変更点

本マニュアルでは、前回のリリース以降に、以下の点を更新しています。

- CA Technologies へのブランド変更
- SharePoint 2003 Agent のサポートがドロップされました。
- 「[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス \(P. 21\)](#)」が追加され、新しい Agent for Microsoft SharePoint Server に関する説明が含まれました。
- 「SharePoint 2010 システムのバックアップ」の章が追加されました。
- 「[SharePoint Server 2010 のバックアップ オプションダイアログ ボックス \(P. 32\)](#)」が追加され、このダイアログ ボックスを使用してバックアップ処理を設定および実行する手順が記載されました。
- [SharePoint Server 2007 のバックアップ オプションダイアログ ボックス \(P. 44\)](#) の説明が更新され、このダイアログ ボックスを使用してバックアップ処理を設定および実行する手順が更新されました。
- 「SharePoint 2010 システムのリストア」の章が追加されました。
- 「[SharePoint Server 2010 のリストア オプションダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)」が追加され、データベースレベルのリストア オプションダイアログ ボックスを使用してリストア処理を設定および実行する手順が記載されました。
- 「[SharePoint Server 2007 のリストア オプションダイアログ ボックス \(P. 75\)](#)」が更新され、データベースレベルのリストア オプションダイアログ ボックスを使用してリストア処理を設定および実行する手順が更新されました。
- 「[SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプションダイアログ ボックス \(P. 60\)](#)」が追加され、このダイアログ ボックスの環境設定オプションが説明されました。
- 「[SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプションダイアログ ボックス \(P. 84\)](#)」が追加され、このダイアログ ボックスの環境設定オプションが説明されました。
- 「[SharePoint 2010 でのドキュメントレベルリストアの実行 \(P. 65\)](#)」が追加され、ドキュメントレベルのリストア オプションダイアログ ボックスおよび Agent for Microsoft SharePoint Server を使用したドキュメントレベルのリストアの実行方法について説明されました。

- 「[SharePoint 2007 でのドキュメントレベルリストアの実行 \(P. 89\)](#)」が追加され、ドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックスおよび **Agent for Microsoft SharePoint Server** を使用したドキュメントレベルのリストアの実行方法について説明されました。
- 「[Agent for Microsoft SharePoint Server の制限 \(P. 93\)](#)」が追加され、エージェントによるリストアの制約について説明されました。
- 付録「[Microsoft SharePoint Server 2010 の機能 \(P. 100\)](#)」が追加され、エージェントによってサポートされる SharePoint Server 2010 の機能が説明されました。
- 付録「[Microsoft SharePoint 2010 データ \(P. 101\)](#)」が追加され、エージェントによってサポートされる SharePoint Server 2010 データが説明されました。
- 付録「[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能 \(P. 103\)](#)」が追加され、エージェントによってサポートされる SharePoint Server 2007 の機能が説明されました。
- 付録「[Microsoft SharePoint 2007 データ \(P. 104\)](#)」が追加され、エージェントによってサポートされる SharePoint Server 2007 のデータが説明されました。
- 製品およびドキュメント自体の利便性と理解の向上に役立つことを目的として、ユーザのフィードバック、拡張機能、修正、その他小規模な変更を反映するために更新されました。





# 目次

---

<b>第 1 章: エージェントの紹介</b>	<b>13</b>
エージェントの特徴	13
SharePoint Server 2010 の機能	14
SharePoint Server 2007 の機能	14
Microsoft SharePoint Server のサポート	15
SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作	15
<b>第 2 章: エージェントのインストール</b>	<b>17</b>
環境に関する考慮事項	17
インストールの前提条件	17
Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項	19
エージェントのインストール	20
Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス	21
SharePoint システムでのエージェントの設定	26
<b>第 3 章: SharePoint 2010 システムのバックアップ</b>	<b>29</b>
SharePoint 2010 でのバックアップの概要	29
2010 でのデータベースレベル バックアップの前提条件	29
SharePoint 2010 でフル バックアップを実行する方法	30
2010 でのバックアップに関する考慮事項	31
SharePoint Server 2010 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス	32
エージェント バックアップ オプション	35
SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルのバックアップ	38
<b>第 4 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ</b>	<b>41</b>
SharePoint 2007 でのバックアップの概要	41
データベースレベルのバックアップ前提条件	41
フルバックアップの実行方法	42
バックアップの考慮事項	43
データベースレベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス	44
SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ	47

---

<b>第 5 章: SharePoint 2010 システムのリストア</b>	<b>49</b>
SharePoint Server 2010 のリストアの概要 .....	49
SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルリストア セット .....	50
SharePoint Server 2010 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス .....	50
SharePoint Server 2010 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス .....	51
SharePoint Server 2010 のリストア環境設定 .....	53
SharePoint Server 2010 のデータベースレベルリストアの前提条件 .....	54
SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルリストアの実行 .....	56
SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス .....	60
[SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックス .....	63
ドキュメントレベルリストアのデスティネーションフォルダ .....	64
SharePoint 2010 で元の場所へのドキュメントレベルリストアを実行 .....	65
SharePoint 2010 で別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 .....	67
<b>第 6 章: SharePoint 2007 システムのリストア</b>	<b>73</b>
リストアの概要 .....	73
データベースレベルのリストア セット .....	74
SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス .....	74
SharePoint 2007 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス .....	75
リストア環境設定 .....	77
データベースレベルのリストアの前提条件 .....	78
データベースレベルのデータリストアの実行 .....	80
SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス .....	84
[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックス .....	87
SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 .....	89
SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 .....	91
Agent for Microsoft SharePoint Server の制限 .....	93
<b>第 7 章: 推奨事項</b>	<b>95</b>
適切な場所の選択方法 .....	95
ダンプの場所へのアクセス権の設定 .....	96
<b>付録 A: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能</b>	<b>99</b>
Microsoft SharePoint Server 2010 の機能 .....	100
Microsoft SharePoint 2010 データ .....	101

---

---

Microsoft SharePoint Server 2007 の機能.....	103
Microsoft SharePoint 2007 データ .....	104
<b>付録 B: 惨事復旧</b>	<b>105</b>
SharePoint 2010 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法 .....	105
SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法 .....	106
<b>付録 C: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定</b>	<b>107</b>
Microsoft SQL 認証の種類 .....	107
認証要件 .....	107
Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更 .....	108
<b>付録 D: トラブルシューティング</b>	<b>109</b>
AE9972 .....	109
サイト コレクションを元の場所へリストアできない .....	110
<b>用語集</b>	<b>111</b>
<b>索引</b>	<b>113</b>



# 第 1 章: エージェントの紹介

---

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバおよびファイル システム向けの包括的かつ分散的なストレージソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーククライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup が提供するエージェントの 1 つに、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server があります。このエージェントを使用して、Microsoft SharePoint Server 2010、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 のデータをバックアップおよびリストアできます。

SharePoint 環境は複雑で多くのマシンに分散されますが、エージェントは、すべての SharePoint データを CA ARCserve Backup サーバにあるインターフェースのシングル ノードに統合することで、SharePoint インストールの完全な保護を提供します。SharePoint のコンテンツは、SharePoint 分散データベース、シングルサインオン (SSO)、検索インデックスで構成されます。エージェントを使用すると、CA ARCserve Backup の機能を使って、ネットワークにあるすべての SharePoint データのバックアップとリストアを簡単に管理できます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[エージェントの特徴 \(P. 13\)](#)

[Microsoft SharePoint Server のサポート \(P. 15\)](#)

[SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作 \(P. 15\)](#)

## エージェントの特徴

Agent for Microsoft SharePoint Server は、バックアップおよびリストアの処理を容易にする多くの機能を提供します。現在のところ、Microsoft SharePoint Server 2010、Microsoft Office SharePoint Server 2007、Microsoft SharePoint Foundation 2010、Microsoft Windows SharePoint Services 3.0 に対するバックアップおよびリストア機能が提供されています。

### SharePoint Server 2010 の機能

SharePoint Server 2010 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2010 ファームとファーム コンポーネントをバックアップおよびリストアします。  
注: さまざまなファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2010 の機能 \(P. 100\)](#)」を参照してください。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。
- 環境設定のみをバックアップするオプション、および内容と環境設定をバックアップするオプションをサポートします。
- 環境設定のみをリストアするオプション、および内容と環境設定をリストアするオプションをサポートします。
- フェールオーバー データベース サーバ用のデータベースレベル バックアップおよびデータベースレベルおよびドキュメントレベルリストアをサポートします。
- ドキュメントレベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

### SharePoint Server 2007 の機能

SharePoint Server 2007 に対しては、エージェントによって以下の機能がサポートされます。

- SharePoint Server 2007 ファームおよびファーム コンポーネントのバックアップおよびリストア サポートされるファーム コンポーネントの詳細については、「[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能 \(P. 103\)](#)」を参照してください。
- SharePoint データを元の場所または異なるデスティネーションにリストアするよう指定できます。
- 幅広い種類のストレージ デバイスへのバックアップをサポートします。
- ドキュメントレベルまたは詳細レベルでのリストアをサポートします。

## Microsoft SharePoint Server のサポート

以下の表に、Agent for Microsoft SharePoint Server が動作する Microsoft SharePoint Server のバージョンおよびサポートする Windows オペレーティングシステムを示します。

	Microsoft SharePoint Server 2007	Microsoft SharePoint Server 2007 SP1	Microsoft SharePoint Server 2007 SP2	Microsoft SharePoint Server 2010
Windows Server 2003 (x86)	○	○	○	x
Windows Server 2003 (x64)	○	○	○	x
Windows Server 2008 (x86)	x	○	○	x
Windows Server 2008 (x64)	x	○	○	○
Windows Server 2008 R2	x	x	○	○

## SharePoint Server システムにおけるエージェントの動作

CA ARCserve Backup と Agent for Microsoft SharePoint Server は連携して SharePoint Server データをバックアップおよびリストアします。CA ARCserve Backup がデータをバックアップする際、サーバはエージェントに接続してリクエストを送信します。エージェントは SharePoint Server からデータを取得し、ディスク上のダンプフォルダにデータをエクスポートしてから、CA ARCserve Backup にデータを送信します。ここでデータがメディアにバックアップされます。リストアの際もエージェントは同様に動作し、バックアップされたデータを CA ARCserve Backup からサーバに転送する処理をサポートします。





## 第 2 章: エージェントのインストール

---

この章では、SharePoint 2010 システムおよび SharePoint 2007 システムへの Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールと環境設定について説明します。このセクションの説明は、読者が Microsoft SharePoint Server ファームの一般的な特徴と要件について熟知していることを前提としています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[環境に関する考慮事項](#) (P. 17)

[インストールの前提条件](#) (P. 17)

[エージェントのインストール](#) (P. 20)

### 環境に関する考慮事項

SharePoint 環境は複雑になる可能性があり、複数のマシンにわたって分散する場合があります。サーバファームの設定は、Microsoft によってサポートされています。例として、分散 SharePoint 環境には、以下のコンポーネントを含めることができます。

- 1 つ以上の Web フロントエンド サーバ
- Windows SharePoint Service Help Search サービスが有効になったアプリケーション サーバ (複数可)。
- Office SharePoint Server Search サービスが有効になった Indexer サーバ (複数可)。
- SharePoint Server ファームによって使用されるデータベース サーバ (複数可)。

### インストールの前提条件

SharePoint Server システムにエージェントをインストールする前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールするシステムが、インストールに必要な最小要件を満たしていることを確認します。要件の一覧については *Readme* を参照してください。

- ソフトウェアをインストールするコンピュータに対するシステム管理者 (root ユーザ) 権限または適切な権限を持っていることを確認します。
- **Agent for Microsoft SharePoint Server** 環境設定ウィザードに入力するユーザ名には、SharePoint Server ファーム内の全マシンへの管理者権限を持っている必要があります。
- Microsoft SharePoint Server ファームの管理者グループに属するアカウントを確認します。
- Microsoft SharePoint Server 製品、または Microsoft SharePoint Service 3.0 以降をインストールしたことを確認します。
- **Agent for Microsoft SharePoint Server** は、ファームが元々作成されたのと同じシステムで、**Central Administration** が実行されているシステムにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップとリストアのジョブが失敗する可能性があります。

## Agent for Microsoft SharePoint Server のインストールに関する考慮事項

エージェントをインストールする際は、以下の点を考慮してください。

- Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールする前に、Microsoft Office SharePoint Server 製品または Microsoft Windows Shared Service 3.0 以降をインストールする必要があります。このエージェントは、Microsoft Office SharePoint Server がサポートされているすべてのオペレーティング システムでサポートされています。
- CA ARCserve Backup サーバは、SharePoint 環境で、名前を使ってすべてのマシンに ping できる必要があります。SharePoint 環境で DNS (ドメイン ネーム システム) を使用していない場合は、SharePoint 環境にあるすべてのマシンを CA ARCserve Backup サーバの hosts ファイルに追加する必要があります。
- Microsoft SQL Server Windows サービスをドメイン アカウントまたはローカル システム アカウントとして実行する必要があります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server は、ファームが元々作成されたマシンで、Windows SharePoint Service Administration サービスが実行されているのと同じマシンにインストールする必要があります。そうしないと、バックアップ ジョブまたはリストア ジョブが失敗する可能性があります。
- CA ARCserve Backup サーバとエージェント サーバが異なるタイムゾーンにある場合、ジョブが正常に完了しない可能性があります。ジョブが確実に完了するようにするには、エージェント サーバと CA ARCserve Backup サーバとの間でタイムゾーンの同期をとる必要があります。
- Microsoft の既知の問題として、Windows Server 2008 システムに Windows SharePoint Services 3.0 および Microsoft Office SharePoint Server 2007 を展開する方法に応じて、SharePoint 2007 の動作が異なることがわかっています。
  - Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 Service Pack 1 をアップグレードした場合、ファームが元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールする必要があります。バックアップ ジョブやリストア ジョブをサブミットする前に、このサービスがターゲット マシン上で実行されていることを確認する必要があります。実行されていない場合、ジョブは失敗する可能性があります。

- Windows SharePoint Services 3.0 または Microsoft Office SharePoint Server 2007 (Service Pack 1 を含む) をインストールした場合、ファームが元々作成されたマシンで、Central Administration Service が実行されているマシン上に CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server をインストールします。ただし、この場合、バックアップ ジョブやリストア ジョブを実行するターゲット マシン上で Central Administration Service を実行している必要はありません。
- CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server をこのリリースにアップグレードする際にサーバファーム インストールを選択した場合は、ファームの作成時に使用したのと同じファーム管理者を使用する必要があります。別のファーム管理者を使用する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の環境設定を起動して、環境設定をもう一度行う必要があります。この制限事項は、サーバファーム インストール(「完全」および「Web フロントエンド」)にのみ影響します。SharePoint の単一サーバ(スタンドアロン)インストールには影響しません。

## エージェントのインストール

Agent for Microsoft SharePoint Server は、CA ARCserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。

CA ARCserve Backup のインストール方法の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

詳細情報:

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス \(P. 21\)](#)

[SharePoint システムでのエージェントの設定 \(P. 26\)](#)

## Agent for Microsoft SharePoint 環境設定ダイアログ ボックス

Agent ダイアログ ボックスを開き、以下の手順を使用してオプションを設定できます。

### [Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスを開く方法

1. Windows の [スタート]-[すべてのプログラム]-[CA]-[ARCserve Backup]-[Backup Agent 管理]の順に選択します。

[ARCserve Backup Agent 管理]ダイアログ ボックスが開きます。

2. ドロップダウンリストから[CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server]を選択して、[環境設定]をクリックします。

[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。デフォルトでは、[DB レベル環境設定]タブが表示されます。

## Agent for Microsoft SharePoint データベース レベル環境設定タブ

Agent for Microsoft SharePoint の[データベースレベル環境設定]タブでは、エージェントがインストールされている共有フォルダに Microsoft SharePoint データを格納するオプションを指定できます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "Agent for Microsoft SharePoint 環境設定". It has two tabs: "DB レベル環境設定" (selected) and "ドキュメント レベル環境設定". The "DB レベル環境設定" tab contains the following sections:

- デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所**  
Microsoft SharePoint がバックアップ/リストアの最初のダンプに使用する場所を選択してください。
  - CA ARCserve Backup サーバ(S)
  - CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server (ローカルマシン)(A)
  - その他 (NAS、ファイル) のサーバ名(N):
- バックアップ/リストア ダンプのパス**
  - 共有名:
  - 物理パス:
- バックアップ/リストア アカウント認証情報**
  - 認証情報をリセットする(R)
  - ユーザ名:
  - パスワード:

At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル", and "ヘルプ".

[データベースレベル環境設定]タブには次のオプションが含まれます。

### デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所

[デフォルトのバックアップ/リストア ダンプの場所]には、以下のオプションがあります。

注: リストア ジョブをサブミットする場合にも同じ場所が使用されます。

- **CA ARCserve Backup サーバ** - SharePoint データを、テープに保存する前に CA ARCserve サーバの共有フォルダにエクスポートします。

- **CA ARCserve BackupAgent for Microsoft SharePoint Server (ローカルマシン) - SharePoint** データを、エージェントがインストールされているローカルコンピュータ上の共有フォルダにエクスポートします。エクスポートされたデータは、ネットワーク経由でテープに保存されます。
- **その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint** データを、NAS デバイスまたはパブリックの共有フォルダにエクスポートします。このオプションを選択する場合は、サーバ名を指定する必要があります。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

#### バックアップ/リストア ダンプのパス

[バックアップ/リストア ダンプのパス]では、以下のとおり共有名と物理パスを指定します。

- **共有名** - バックアップ/リストア ダンプの場所として[その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのバックアップ先の共有フォルダを指定します。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 名前には、特殊文字「\$」を最後に含むことはできません。

- **物理パス** - バックアップ/リストア ダンプの場所として[CA ARCserve Backup サーバ]または[CA ARCserve Backup Agent for SharePoint Server]を選択した場合は、データのバックアップ先のパスを指定します。

#### バックアップ/リストア アカウント認証情報

COM+ コンポーネントをインストールするには、[バックアップ/リストア アカウント認証情報]でユーザ名およびパスワードを指定します。

注: COM+ コンポーネントがインストールされていない場合、[認証情報をリセットする]オプションが有効になっています。これらのコンポーネントをインストールするには、ユーザの詳細を入力する必要があります。

- **ユーザ名** - ファーム管理者のユーザ情報を定義します。
- **パスワード** - ファーム管理者のパスワードを定義します。

## Agent for Microsoft SharePoint ドキュメントレベル環境設定タブ

さらに細かいレベルでリストアを実行するには、Agent for Microsoft SharePoint の[ドキュメントレベル環境設定]タブでオプションを設定する必要があります。



[ドキュメントレベル環境設定]タブには以下のオプションが含まれます。

### ドキュメントレベル オプションを有効にする

ドキュメントレベルのリストア処理を有効にします。[ドキュメントレベル オプションを有効にする]オプションはデフォルトでオンになっています。

**注:** ドキュメントレベルのオブジェクトのリストアを実行するには、バックアップ オプションのダイアログ ボックスで[エージェントのデフォルト設定を使用する]オプションを選択し、さらにこの[ドキュメントレベル オプションを有効にする]オプションを選択する必要があります。

### 含めるバージョン



ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャーバージョン - 最後のメジャーバージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナーバージョン - 最後のメジャーおよびマイナーバージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

### 含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべての (デフォルト) - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザメンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

### バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

### 一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。
- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

**注:** SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

**注:** 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベースサーバのバージョンと同じである必要があります。

## SharePoint システムでのエージェントの設定

Agent for Microsoft SharePoint Server をインストールした後、エージェントは Microsoft SharePoint Server 2007 に SPSO12 エージェント COM+ コンポーネントをインストールし、Microsoft SharePoint Server 2010 に SPSO14 エージェント COM+ コンポーネントをインストールします。これらのコンポーネントは、SharePoint Server と連携してデータをバックアップおよびリストアします。

**重要:** Agent for Microsoft SharePoint Server を設定する場合、ページファイル使用率のサイズが物理メモリを超えないようにしてください。そうしないと、設定に失敗します。

### SharePoint システムでエージェントを設定する方法

1. Windows の [スタート]-[すべてのプログラム]-[CA]-[ARCserve Backup]-[Backup Agent 管理]の順に選択します。  
[ARCserve Backup Agent 管理]ダイアログ ボックスが開きます。
2. ドロップダウンリストから [CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server] を選択して、[環境設定] をクリックします。  
[Agent for Microsoft SharePoint 環境設定] ダイアログ ボックスが開き、デフォルトで [DB レベル環境設定] タブが表示されます。

3. [DB レベル環境設定] タブでデータベースレベルのオプションを選択し、エージェントのデータベースレベルのバックアップおよびリストア処理を設定します。データベースレベルのオプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint データベースレベル環境設定タブ \(P. 22\)](#)」を参照してください。

これでデータベースレベルの環境設定が完了しました。

4. [ドキュメントレベル環境設定] タブを選択します。  
ドキュメントレベルの設定オプションが表示されます。
5. タブ内のオプションを選択して、ドキュメントレベルのリストアについてエージェントを設定します。ドキュメントレベルのエージェント オプションの詳細については、「[Agent for Microsoft SharePoint Server ドキュメントレベル環境設定タブ \(P. 24\)](#)」を参照してください。
6. これでドキュメントレベルの環境設定が完了しました。
7. [OK] をクリックします。

これで、Agent for SharePoint Server の設定が完了しました。



# 第 3 章: SharePoint 2010 システムのバックアップ

---

この章では、SharePoint 2010 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2010 でのバックアップの概要 \(P. 29\)](#)

[2010 でのデータベースレベル バックアップの前提条件 \(P. 29\)](#)

[SharePoint 2010 でフル バックアップを実行する方法 \(P. 30\)](#)

[2010 でのバックアップに関する考慮事項 \(P. 31\)](#)

[SharePoint Server 2010 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス \(P. 32\)](#)

[エージェント バックアップ オプション \(P. 35\)](#)

[SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルのバックアップ \(P. 38\)](#)

## SharePoint 2010 でのバックアップの概要

データベースレベルのバックアップは、SharePoint Server 2010 データベース ファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

## 2010 でのデータベース レベル バックアップの前提条件

SharePoint Server 2010 上でデータベースレベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスが、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中である。
- Microsoft SQL Server が実行中である。

## SharePoint 2010 でフル バックアップを実行する方法

データベースのフル バックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフル バックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010 ファームまたは Windows SharePoint ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフル バックアップをすぐに行います。

- 通常の Web アプリケーション または SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの新しい Web アプリケーションおよび新しいデータベースの追加。
- フル バックアップ ジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

注: ファームトポロジを更新した場合、Windows サービスの CA ARCserve SharePoint Agent Service を必ず再起動してください。

## 2010 でのバックアップに関する考慮事項

バックアップを正常に実行するには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフル バックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフル バックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファームレベルのフル バックアップのすぐ後にファームレベルの差分バックアップを実行することはできませんが、ファームレベルのフル バックアップを行ってから、Web アプリケーションのフル バックアップを実行し、次にファームの差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラー メッセージが表示されます。
- SharePoint Server 2010 と同時に Microsoft SQL Server ツール、Central Administration Web サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフル バックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- Agent for Microsoft SharePoint Server と、Client Agent や Agent for SQL Server などのその他のエージェントを使用して SharePoint Server 2010 を保護する場合は、SharePoint 2010 のデータが 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、SharePoint 2010 データベースおよび Client Agent および Agent for SQL Server バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。

SharePoint Server 2010 は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- 単一のインスタンスを使用したバックアップ ジョブのマルチプレキシングのマルチストリーミング。
- 異なる CA ARCserve Backup ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

## SharePoint Server 2010 のバックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2010 のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスが開きます。

Agent for Microsoft SharePoint 2010 のバックアップ オプション

デフォルトのバックアップ ダンプ場所  
Microsoft SharePoint Server 2010 が最初のバックアップ ダンプの保存先に使用するデフォルト ディスク ロケーションを選択します。

エージェントのデフォルト設定を使用する(U)  
 CA ARCserve Backup サーバ(A)  
 CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint(S)  
 その他 (NAS、ファイル) のサーバ名(T):

バックアップ ダンプ パス

共有名(N)   
物理パス(P)

環境設定のバックアップ

環境設定のみバックアップする(B)  
 内容と環境設定をバックアップする(K)

バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する(R)  
 ドキュメント レベル リストアを有効にする(E)

バックアップ方式

グローバルまたはローテーション設定を使用する(G)  
 フル(F)  
 差分(D)

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)



[Agent for Microsoft SharePoint 2010 のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスには、以下のフィールドやオプションがあります。

#### デフォルトのバックアップ ダンプの場所

バックアップ ダンプの場所によって、CA ARCserve Backup で、データをテープに保存する前に一時的に保存する場所が指定されます。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [CA ARCserve Backup サーバ] -- SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- [CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

#### バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として[その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

#### 環境設定のバックアップ

環境設定を選択する必要があります。

- [環境設定のみバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の環境設定のみがバックアップされます。

- [内容と環境設定をバックアップする] -- このオプションを選択すると、SharePoint Server の内容および環境設定の両方がバックアップされます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

#### バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

**注:** 保持されるデータは、通常前回のフル バックアップまたは最新のフル バックアップと、前回の差分バックアップのダンプ データになります。

#### ドキュメントレベル リストアを有効にする

ドキュメントレベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

#### バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。このバックアップ方式によって、CA ARCserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。

**注:** サービス パックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフル バックアップを実行してください。

- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

**注:** [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。

Microsoft SharePoint 2010 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。[スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

## エージェント バックアップ オプション

バックアップ オプションのダイアログ ボックスでは、データベースの保護方式を以下から選択できます。

### データベース エージェント

エージェントを使用して SharePoint データをバックアップします。

### ハードウェア スナップショット

VSS ハードウェア スナップショットを使用して SharePoint データをバックアップします。このオプションを使用するには、CA ARCserve Backup Enterprise Module をインストールする必要があります。詳細については、「CA ARCserve Backup Microsoft Volume Shadow Copy Service ユーザ ガイド」を参照してください。

### データベース全体

フル バックアップを使用して、SharePoint Server データベースをバックアップします。フル バックアップを使用して SharePoint Server データベース以外のデータ(検索インデックスなど)をすべてバックアップすることもできます。

**注:** データベース以外のデータでは、エージェントは、データベース全体のバックアップのみをサポートします。

### データベース差分

データベース全体のバックアップが最後に行われてから変更されたデータベースのデータのバックアップを行います。たとえば、日曜日の夜にデータベース全体のバックアップを行った場合、月曜日の夜に差分バックアップを行い、月曜日に変更されたデータのみをバックアップします。

### ファイルとファイル グループ

データベース内の選択したファイルをバックアップします。データベースのサイズやパフォーマンス要件によっては、データベースのフル バックアップを行うのが現実的でない場合があります。このような場合は、このオプションでファイルまたはファイル グループを選択し、バックアップを行います。

### ファイルとファイル グループ - 差分

選択したファイルで、最後のファイル/ファイル グループ バックアップから変更されたデータベースのデータをバックアップします。ファイルの差分バックアップにより、トランザクション ログからリストアすべきトランザクションの数が減少し、回復時間が短縮されます。

### トランザクション ログ

トランザクション ログをバックアップします。トランザクション ログのバックアップでは、以下のオプションが提供されます。

- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除する] - トランザクション ログからアクティブでないエントリを切り捨てます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- [アクティブでないエントリをトランザクション ログから削除しない] - アクティブでないログ エントリはバックアップ後も保持されます。これらのエントリは、次のトランザクション ログのバックアップに含まれます。
- [ログの末尾をバックアップし、データベースは復元中の状態にする] - ログの末尾がバックアップされ、データベースは読み取り専用およびスタンバイ モードのままになります。前回のバックアップ以降のアクティビティをバックアップして、リストアのためにデータベースをオフラインにするには、このオプションを使用します。

**重要:** SharePoint 環境設定データベースのバックアップでは、このオプションを選択しないでください。この機能はサポートされていません。ただし、その他の SharePoint データベースのバックアップ時はこのオプションを使用することができます。

以下のデータベースの整合性チェックもサポートされています。

### バックアップ前

データベースのバックアップが実行される前に整合性をチェックします。

### バックアップ後

データベースのバックアップが実行された後に整合性をチェックします。

DBCC が失敗した場合もバックアップを続行する

データベースの整合性チェックが失敗した場合でもバックアップを続行します。

**データベースの物理的な整合性をチェックする**

破損ページと共通ハードウェア エラー、ページおよびレコードのヘッダの物理構造の状態、ページのオブジェクトとインデックス ID 間の整合性を確認します。

**インデックスをチェックしない**

ユーザ定義のテーブル用インデックスをチェックせずに、DBCC を実行します。

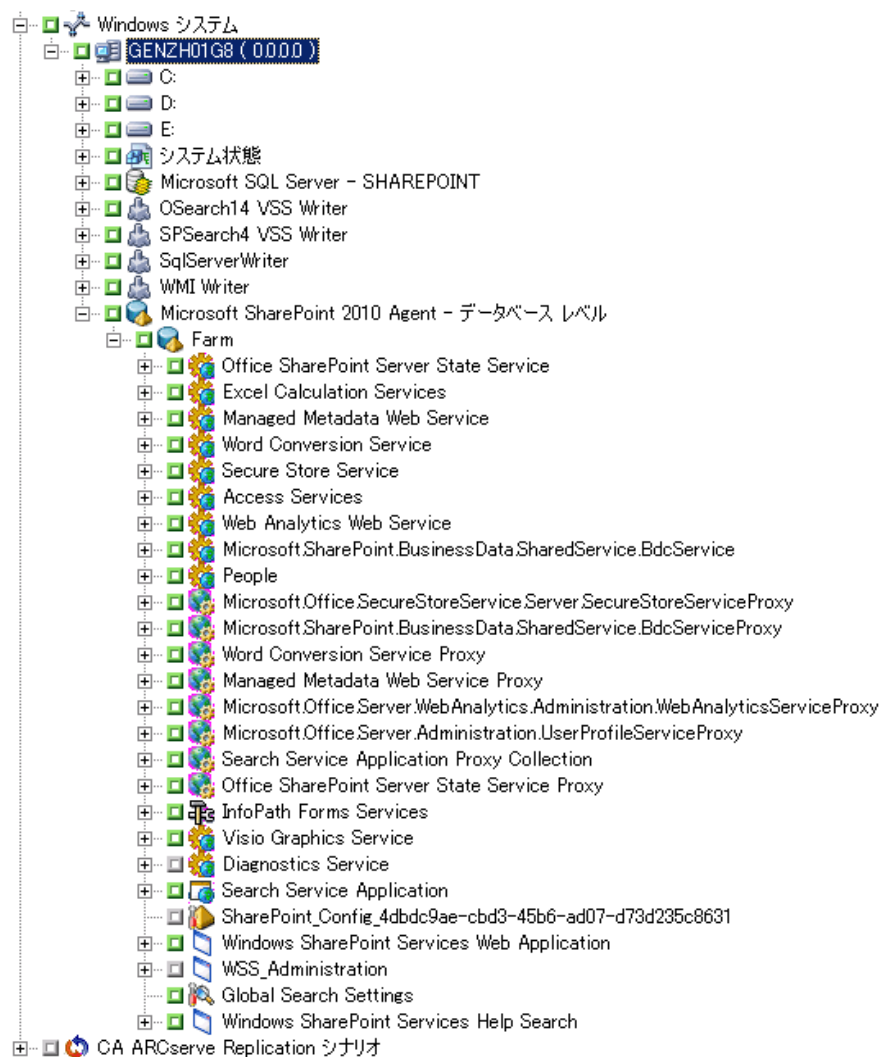
## SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2010 システムでデータベースレベルのバックアップを実行します。

SharePoint 2010 システムでデータベースレベルのバックアップを実行する方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[バックアップ]を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ]ウィンドウで、バックアップする[データベースレベル]オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2010 - データベースレベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある[ファーム]オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択して、使用するバックアップ方式を選択して[OK]をクリックします。

**注:** エージェントの最初の実行中にフル バックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション]タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
5. [スケジュール]タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーション スキーマを使用する場合は、[ローテーション スキーマ]オプションを選択し、スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーション スキーマの詳細については、オンライン ヘルプまたは「[管理者ガイド](#)」を参照してください。

6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。  
[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ]ボタンをクリックして変更を行い、[OK]ボタンをクリックします。
8. [OK]をクリックします。

[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。

9. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスから、[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブ セッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度]をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ]の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK]をクリックします。

11. [OK]をクリックします。  
バックアップ ジョブがサブミットされます。





# 第 4 章: SharePoint 2007 システムのバックアップ

---

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのバックアップについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2007 でのバックアップの概要 \(P. 41\)](#)

[データベースレベルのバックアップ前提条件 \(P. 41\)](#)

[フルバックアップの実行方法 \(P. 42\)](#)

[バックアップの考慮事項 \(P. 43\)](#)

[データベースレベル エージェントバックアップ オプションダイアログ ボックス \(P. 44\)](#)

[SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ \(P. 47\)](#)

## SharePoint 2007 でのバックアップの概要

データベースレベルのバックアップは SharePoint Server 2007 データベース ファイルを保護します。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

## データベース レベルのバックアップ前提条件

SharePoint Server 2007 上でデータベースレベルのバックアップを実行する前に、以下の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services 管理サービスは、フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中です。
- Microsoft SQL Server が実行中であることを確認します。

## フル バックアップの実行方法

データベースのフル バックアップを実行する場合は、特定のファームの管理操作を確認する必要があります。これらの操作のいずれかを実行してから差分バックアップを実行する場合は、以前にフル バックアップしたデータベースを正常にリストアできないこともあります。この問題を回避するためには、SharePoint 2007 ファームまたは Windows SharePoint 3.0 ファームのトポロジに対して以下のような変更を行った場合は必ずデータベースのフル バックアップをすぐに実行するようにします。

- 新しい Web アプリケーション、新しい SharePoint サービス プロバイダ、新しいデータベースの、通常 Web アプリケーションまたは SharePoint サービス プロバイダ管理 Web アプリケーションへの追加。
- SharePoint サービス プロバイダの名前変更。
- 管理 Web アプリケーションが SharePoint サービス プロバイダから切断されるように、SharePoint サービス プロバイダを削除。
- フル バックアップ ジョブの実行中のキャンセル。
- バックアップからのデータベースのリストア。

## バックアップの考慮事項

バックアップを正常に実行するためには、以下の点を考慮してください。

- コンポーネント A のフル バックアップを実行してから A の子コンポーネント B のフル バックアップを実行した場合、コンポーネント A の差分バックアップは失敗します。つまり、ファームレベルのフル バックアップのすぐ後にファームレベルの差分バックアップを実行することはできませんが、ただし、ファームレベルのフル バックアップを **SharePoint Provider Service** フル バックアップより前に実行してからファーム差分バックアップを実行することはできません。この場合は、差分ジョブは失敗してエラー メッセージが表示されます。
- **SharePoint Server 2007** と同時に **Microsoft SQL Server ツール**、**Central Administration Web** サイトなどのツールを使用してバックアップを実行することはできません。たとえば、これらのツールを使用してフル バックアップを実行する場合は、差分バックアップ ジョブをリストアできないことがあります。
- **Agent for SharePoint** や、**Client Agent** および **Agent for SQL** などのその他のエージェントを使用して **SharePoint Server 2007** を保護しようとする場合は、**SharePoint 2007** データは 2 度以上バックアップされることがあります。この問題を回避するには、**SharePoint 2007** データベースおよび **Client Agent** および **Agent for SQL Server** バックアップ ジョブからのファイルを除外する必要があります。

**SharePoint Server 2007** は以下をサポートしません。

- [グローバル オプション] の下のエージェント側でのデータの暗号化および圧縮。
- バックアップ ジョブのマルチプレキシングおよびマルチ ストリーミング
- 異なる **CA ARCserve Backup** ドメインにある 2 つの異なるマシンのエージェントデータのバックアップ。

## データベース レベル エージェント バックアップ オプション ダイアログ ボックス

以下のセクションでは、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server がデータベースレベルのバックアップを実行する場合に提供するオプションについて説明します。

データベースレベルのバックアップ オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。

**Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション**

デフォルトのバックアップ ダンプ場所  
Microsoft SharePoint Server 2007 が最初のバックアップ ダンプの保存先に使用するデフォルト ディスク ロケーションを選択します。

- エージェントのデフォルト設定を使用する(U)
- CA ARCserve Backup サーバ(A)
- CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint(S)
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名(T):

バックアップ ダンプ パス

共有名(N)

物理パス(P)

バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する(B)

ドキュメント レベル リストアを有効にする(E)

バックアップ方式

- グローバルまたはローテーション設定を使用する(G)
- フル(F)
- 差分(D)

OK(O)    キャンセル(C)    ヘルプ(H)

注: このリリースにアップグレードした後でバックアップ ジョブを実行する場合は、Agent for Microsoft SharePoint Server の[ドキュメントレベル環境設定]ダイアログ ボックスで[ドキュメントレベル オプションを有効にする]を手動で選択する必要があります。また、ドキュメントレベル リストアを実行するには、SharePoint Server 2007 の[バックアップ オプション]ダイアログ ボックスで[ドキュメントレベル リストアを有効にする]オプションが有効になっていることを確認してください。

[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のバックアップ オプション]ダイアログ ボックスには、以下のフィールドやオプションがあります。

### デフォルトのバックアップ ダンプの場所

CA ARCserve Backup は、バックアップ ダンプの場所に基づいて、テープに保存する前にデータを一時的に保存する場所を決定します。

以下のバックアップ ダンプの場所から選択できます。

- [エージェントのデフォルト設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択したバックアップ ダンプの場所を利用できます。
- [CA ARCserve Backup サーバ] -- SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにエクスポートします。
- [CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server] -- SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにエクスポートします。
- [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] -- SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有フォルダにエクスポートします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

### バックアップ ダンプのパス

共有名と物理パスを指定する必要があります。

- [共有名] -- バックアップ ダンプの場所として[その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合は、データのエクスポート先の共有名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- [物理パス] -- バックアップ ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのエクスポート先のパスを指定する必要があります。

### バックアップ後にダンプ データをディスク上に保存する

このオプションはデフォルトで有効になっています。バックアップを実行した後にディスク上のデータを保持できます。

- **注:** 保持されるデータは、通常前回のフルバックアップまたは最新のフルバックアップと、前回の差分バックアップのダンプ データになります。

### ドキュメントレベル リストアを有効にする

ドキュメントレベルのリストア処理を実行できます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

### バックアップ方式

バックアップ ジョブをサブミットする際、バックアップ方式を選択する必要があります。このバックアップ方式によって、CA ARCserve Backup でデータがどのようにバックアップされるかが決まります。以下のバックアップ方式から選択できます。

- [グローバルまたはローテーション設定を使用する] -- デフォルトで有効になっています。これを無効にしない場合は、[スケジュール]タブでバックアップ方式を選択してください。
- [フル] -- データベース全体をバックアップし、後続の増分バックアップまたは差分バックアップに備えてバックアップされたすべてのファイルにマークを付けます。  
**注:** サービス パックへのアップグレード後およびリストアの実行後に初めてエージェントを実行するときは、必ずフルバックアップを実行してください。
- [差分バックアップ] -- 最後のバックアップ以降に変更されたファイルをバックアップします。

**注:** [フル]または[差分]のバックアップ方式を選択する場合は、[スケジュール]タブの[バックアップ方式]オプションは適用されません。

SharePoint 2007 は、[増分バックアップ]方式をサポートしていません。[スケジュール]タブで[増分バックアップ]を選択する場合は、[差分バックアップ]と考えられます。

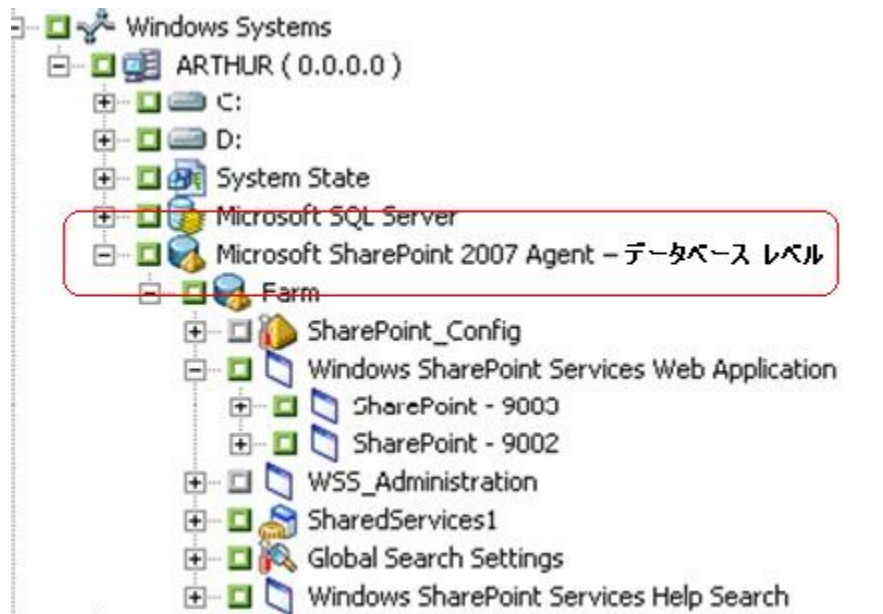
## SharePoint Server 2007 でのデータベースレベルのバックアップ

CA ARCserve Backup のバックアップ マネージャを使用して、SharePoint 2007 システムでデータベースレベルのバックアップを実行します。

SharePoint 2007 システムでデータベースレベルのバックアップを実行する方法

1. CA ARCserve Backup ホーム画面の[クイックスタート]メニューから[バックアップ]を選択します。

バックアップ マネージャ ウィンドウが開きます。



2. [バックアップ マネージャ]ウィンドウで、バックアップする[データベースレベル]オブジェクトを選択します (Microsoft SharePoint 2007 - データベースレベル)。ファーム内の特定のコンポーネントのみをバックアップする場合は、ファームを展開してコンポーネントを選択します。
3. このジョブがある[ファーム]オブジェクトを右クリックし、[エージェントオプション]を選択して、使用するバックアップ方式を選択して[OK]をクリックします。

**注:** エージェントの最初の実行中にフルバックアップを常に実行して、SharePoint Server データベースの完全なセットを保存できるようにします。

4. [デスティネーション]タブをクリックし、バックアップ先を選択します。

5. [スケジュール]タブをクリックします。

カスタム スケジュールを使用する場合は、繰り返し方法を選択します。ローテーション スキーマを使用する場合は、[ローテーション スキーマ]オプションを選択し、スキーマを設定します。ジョブのスケジュールおよびローテーション スキーマの詳細については、オンライン ヘルプまたは「[管理者ガイド](#)」を参照してください。
6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。

[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが開いたら、各オブジェクトに対して正しいユーザ名とパスワードが入力されていることを確認します。ユーザ名やパスワードを入力または変更する場合は、[セキュリティ]ボタンをクリックして変更を行い、[OK]ボタンをクリックします。
8. [OK]をクリックします。

[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。
9. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスから、[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力します。

複数のソースのバックアップを選択した場合に、ジョブ セッションの開始順序を設定するには、[ソース優先度]をクリックします。[一番上へ]、[上へ]、[下へ]、[一番下へ]の各ボタンを使用して、ジョブが処理される順序を変更します。優先順位付けが終わったら、[OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックします。

バックアップ ジョブがサブミットされます。



# 第 5 章: SharePoint 2010 システムのリストア

---

この章では、SharePoint 2010 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint Server 2010 のリストアの概要 \(P. 49\)](#)

[SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルリストア セット \(P. 50\)](#)

[SharePoint Server 2010 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス \(P. 50\)](#)

[SharePoint Server 2010 のデータベースレベルリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)

[SharePoint Server 2010 のデータベースレベルリストアの前提条件 \(P. 54\)](#)

[SharePoint Server 2010 でのデータベースレベルリストアの実行 \(P. 56\)](#)

[SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 60\)](#)

[SharePoint 2010 で元の場所へのドキュメントレベルリストアを実行 \(P. 65\)](#)

[SharePoint 2010 で別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 \(P. 67\)](#)

## SharePoint Server 2010 のリストアの概要

以下のセクションでは、リストアを実行する前に満たす必要がある前提条件、リストア用に提供されている CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、SharePoint 2010 システムでデータベースレベルおよびドキュメントレベルのリストアを実行する手順について説明します。

## SharePoint Server 2010 でのデータベース レベル リストア セット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストア セット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストア セットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストア セットには、フルバックアップ セッションと 1 つの差分バックアップ セッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップ シナリオでは、リストア セットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4
----	------	------	------	------

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップ セッションのみを選択する必要があります。CA ARCserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

## SharePoint Server 2010 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

Agent for Microsoft SharePoint 2010 ダイアログ ボックスのリストア オプションは、データベースレベルのリストア オプションとドキュメントレベルのリストア オプションから構成されています。

詳細情報:

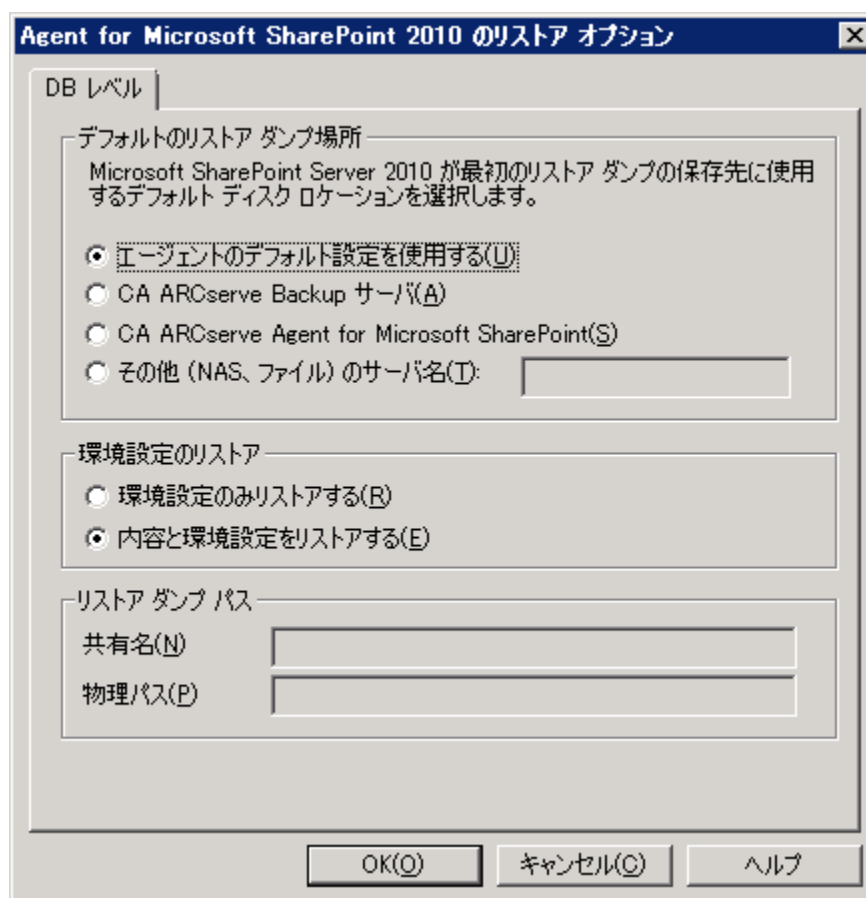
[SharePoint Server 2010 のデータベースレベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 51\)](#)

[SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 60\)](#)

## SharePoint Server 2010 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

データベースレベルのリストア オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2010 のリストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。



[Agent for Microsoft SharePoint 2010 のリストア オプション]ダイアログ ボックスには、以下のフィールドやオプションがあります。

デフォルトのリストア ダンプの場所

データをリストアする前に、リストア ダンプの場所を選択する必要があります。リストアの場所から、CA ARCserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

**注:** リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定]オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- CA ARCserve Backup サーバ - SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint Server - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

**注:** IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

#### リストア環境設定

- 環境設定のみリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に環境設定をリストアします。
- 内容と環境設定をリストアする - データベースレベルのリストアの実行中に内容と環境設定をリストアします。環境設定オプションの詳細については、[「SharePoint Server 2010 のリストア環境設定」](#) (P. 53)を参照してください。

#### リストア ダンプのパス

- 共有名 - デフォルトのリストア ダンプの場所として[その他 (NAS、ファイル) のサーバ名]を選択した場合、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

**注:** 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、[「SharePoint システムでのエージェントの設定」](#) (P. 26)を参照してください。

## SharePoint Server 2010 のリストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストア マネージャの[サブミット]ボタンを使用します。

[SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスが表示されます。

SharePoint 2010 Agent リストア環境設定

リストア環境設定を選択してください。

リストアの種類

新しい環境設定

同じ環境設定

名前と場所

Farm#People#People

新しい名前: People

Farm#People#People#People\_SyncDB\_66f00df64df04929a1b7054123d800ca

新しいデータベース サーバ名: GENZH01G8\*SharePoint

新しいディレクトリ名: C:#Program Files#Microsoft Office Se

新しいデータベース名: People\_SyncDB\_66f00df64df04929a1b

Farm#People#People#People\_SocialDB\_0c9bee9fb6b14150841eaaf7a8d81a0f

新しいデータベース サーバ名: GENZH01G8\*SharePoint

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

### リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にする 것도でき、別のリストア名と場所にする 것도できます。

### ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

### 名前と場所

バックアップ ジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが 1 つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネント タイプ	環境設定項目	コメント
データベース	新しいデータベース サーバ名	データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名の場合もあります。
	新しいディレクトリ名	SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。
	新しいデータベース名	リストア後の新しいデータベース名です。
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	新しいサーバ名	Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。
	新しいディレクトリ名	インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。
Web アプリケーション	新しい Web アプリケーションの URL	Web アプリケーションの Web サイトの URL
	新しい Web アプリケーション名	IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。

## SharePoint Server 2010 のデータベース レベル リストアの前提条件

SharePoint Server 2010 でデータベースレベルのリストアを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。

- 検索サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2 つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2 番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストア ジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの Administrators グループに追加してください。リストア ジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
  - NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE
  - NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

#### ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロール パネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システム ツール] - [ローカル ユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加] をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK] をクリックします。

## SharePoint Server 2010 でのデータベース レベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベースレベルのデータリストアを実行します。

**重要:** コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。[セッション単位]方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストア ジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

### SharePoint Server 2010 データベースをリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。

[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。

2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。

**注:** データベースレベルのリストアでは [ツリー単位]と [セッション単位]の両方がサポートされています。

Microsoft SharePoint 2010 Agent の下 - データベースレベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

シングル バックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションと共有サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには共有サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

3. ディレクトリ ツリーから、[Windows システム]オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。

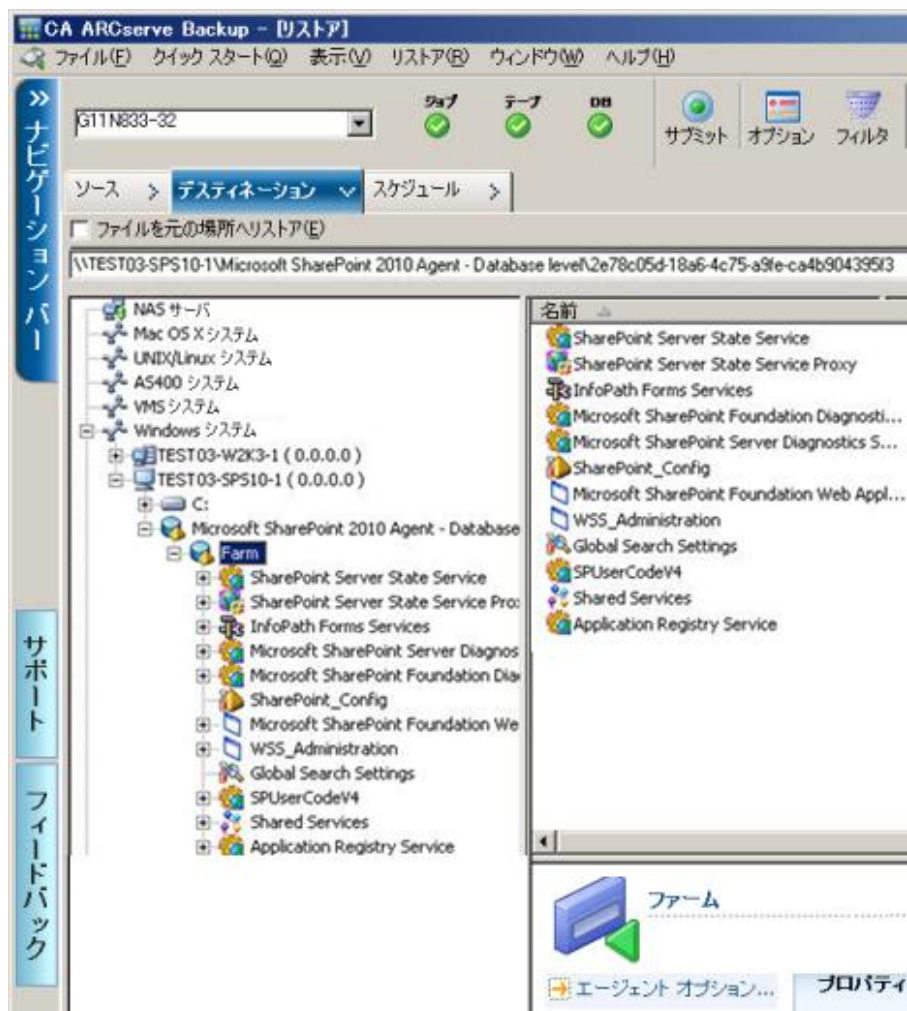


4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイント セッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。リストア オプションの詳細については、「SharePoint (51P. )Server 2010 のデータベースレベル リストア オプション ダイアログ ボックス」を参照してください。
6. [デスティネーション]タブをクリックします。データベース オブジェクトは元の場所 (デフォルト)、または別の場所にリストアすることができます。

**注:** Windows SharePoint 2010 を使用しており、すべてのファームを別のファームにリストアする場合、Microsoft SharePoint RCビルドをバージョン 4747.1000 以降にアップグレードする必要があります。Microsoft の既知の問題によると、Web Analytics Service Application Reporting Database の新しいロケーションへのリストアは動作しません。リストアを実行する前に、そのデータベースの元の場所のディレクトリがデスティネーション ファームに存在することを確認してください。

- 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェックボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2010 - データベースレベル]オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。



- ツールバーの[サブミット]をクリックします。[リストア環境設定]ダイアログボックスに必要な情報を入力します。

別の場所にリストアする場合、[セキュリティ]ダイアログボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

9. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

**注:** ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>\*<ユーザ名>

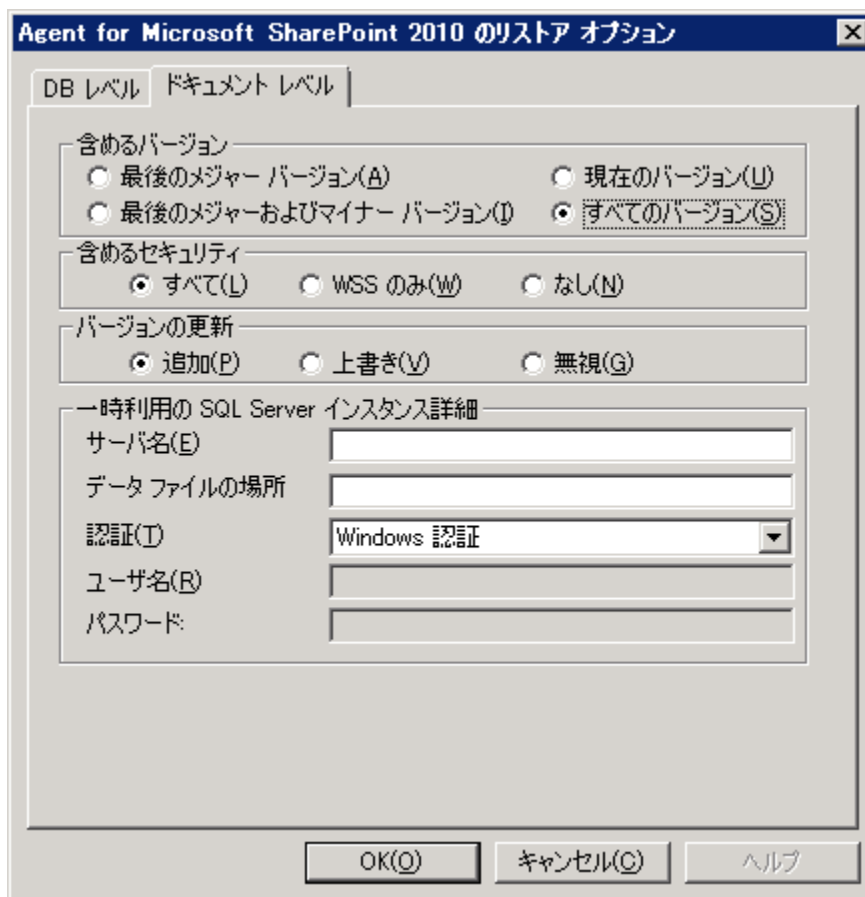
10. [OK]をクリックします。
11. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。

**重要:** リストアの実行後、Internet Information Services (IIS)を再起動する必要があります。

## SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

ドキュメントレベルのリストア ジョブを作成する場合、[ドキュメントレベル]タブを使用してリストア オプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2010 のリストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメントレベル]タブを選択し、リストア処理を実行するためのオプションを設定します。



SharePoint 2010 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります。

### 含めるバージョン

ドキュメントのバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャー バージョン - 最後のメジャー バージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナー バージョン - 最後のメジャーおよびマイナー バージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

#### 含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべての (デフォルト) - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

#### バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

#### 一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。

- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

**注:** SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

**注:** 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint のデータベース サーバのバージョンと同じである必要があります。

## [SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメントレベルリストアを実行する際には、[SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスを設定する必要があります。

リストア マネージャの[デスティネーション]タブを選択した後、ツールバーの[サブミット]をクリックします。[SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint 2010 Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80#SharePoint - 14704#sites/

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O)    キャンセル(C)    ヘルプ(H)

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

### デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定します。

### 所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

### 所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

## ドキュメントレベル リストアのデスティネーション フォルダ

コンテンツ データベース ノード下のコンポーネントはすべてドキュメントレベル コンポーネントと考えられます。これらは展開可能です。リストア デスティネーションにはまた、「別の場所へのリストア」機能を使用する際に、ドキュメントレベル コンポーネントが示されます。ソースタイプに基づいて、適切なデスティネーションを選択できます。詳細については以下の表を参照してください。

ソース	デスティネーション
サイト コレクション	Web アプリケーション
サイト	サイト コレクション
リスト	サイト
フォルダ	リスト、フォルダ
ファイル	リスト、フォルダ
ファイルのバージョン	リスト、フォルダ

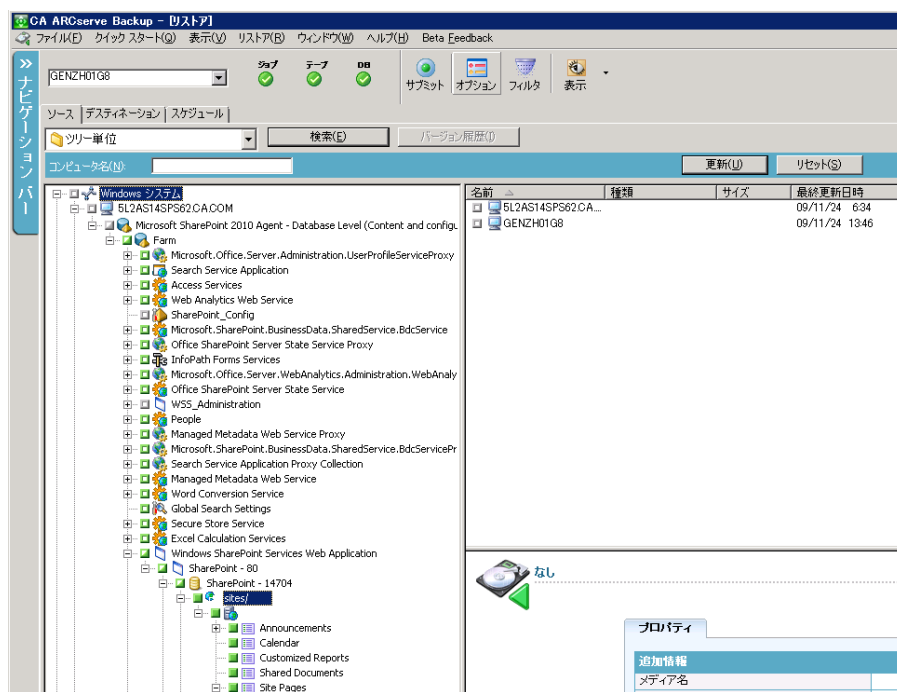


## SharePoint 2010 で元の場所へのドキュメントレベル リストアを実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメントレベルのデータ リストアを実行します。

### サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。  
[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、**Windows システム オブジェクト**を展開し、データベース ノードの下のサイトコレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックします。元の場所(デフォルトの場所)へのデータベース オブジェクトのリストアを選択できます。

6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。
7. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。
8. [OK]をクリックします。
9. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
10. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。  
サイト コレクションがリストアされます。

## SharePoint 2010 で別の場所へのドキュメントレベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメントレベルのデータ リストアを実行します。

**注:** SharePoint Server 2010 のインストール後に[ファームの構成]を実行した場合は、ファームを別の場所にリストアするときに必ず以下の手順に従ってください。

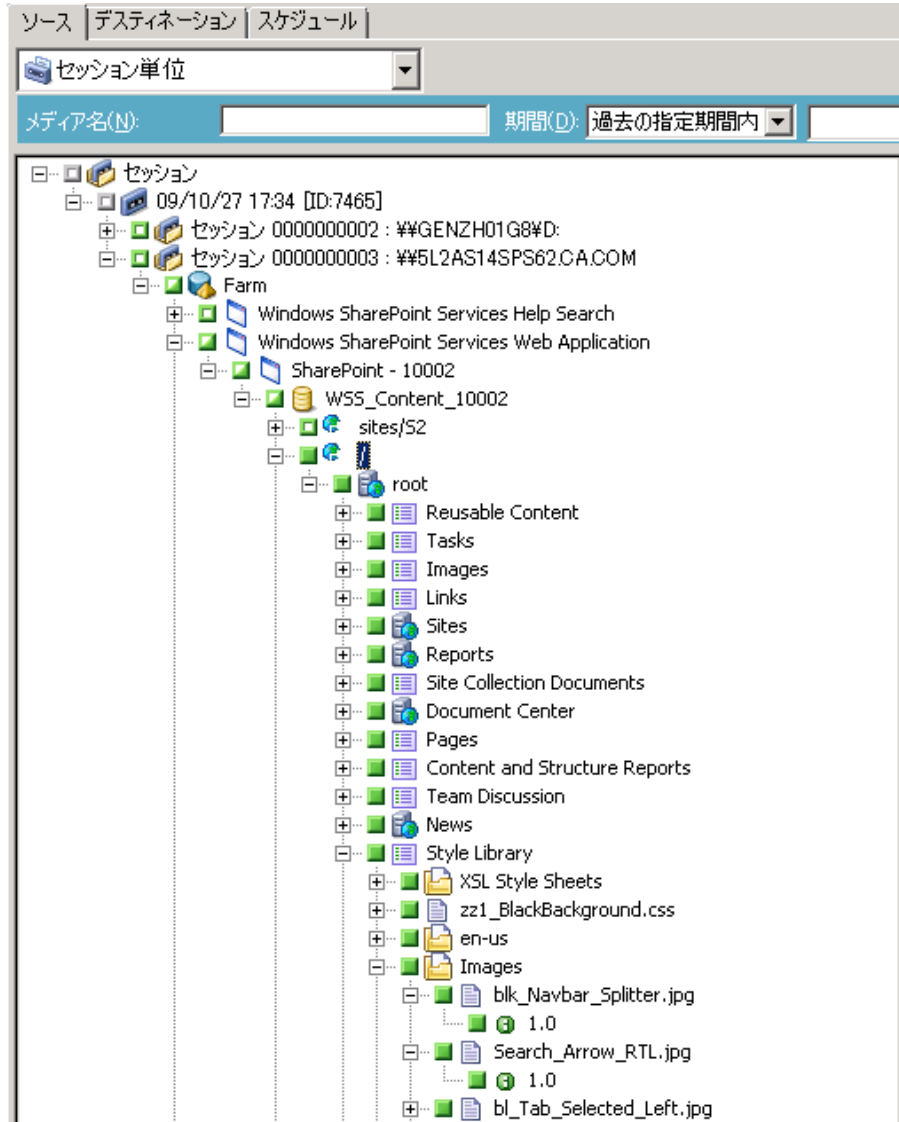
- Windows の[スタート]メニューにある[SharePoint 製品構成ウィザード]を使用して、ファームを切断します。
- 以下のサービスが停止され、それらのステータスが無効になっていることを確認します。
  - SharePoint 2010 Tracing
  - SharePoint 2010 User Code Host
  - SharePoint Foundation Search V4
  - SharePoint Server Search 14
  - SharePoint 2010 VSS Writer
- Microsoft SQL Server Management Studio を使用して、ファーム データベース サーバからデータベースをすべて削除します。

これで、リストア プロセスを実行するための手順に進むことができます。

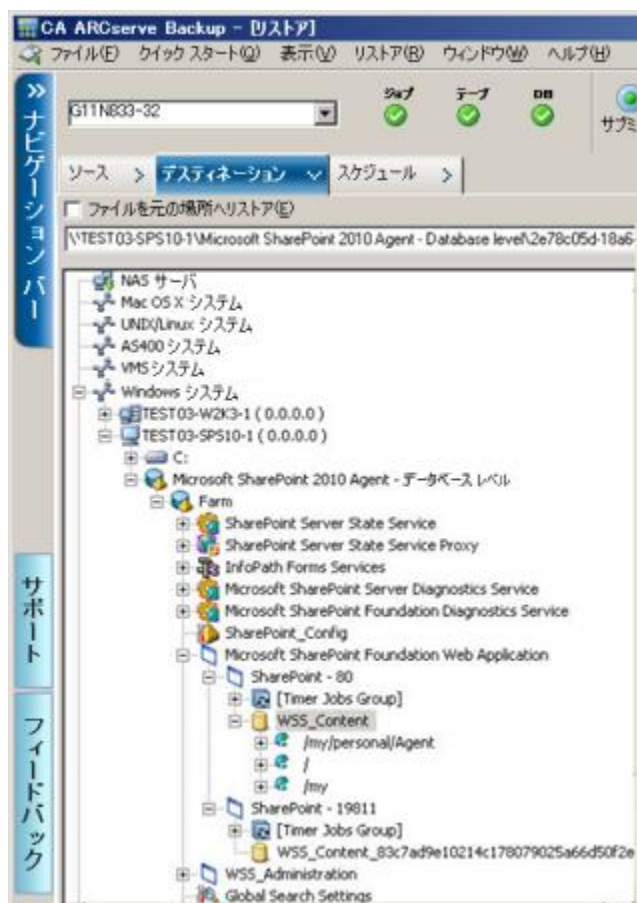
### サイト コレクションを別の場所にリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。  
[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。

3. ディレクトリ ツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下の子コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。



4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックします。データベース オブジェクトを別の場所にリストアすることができます。別の場所の詳細については、「[ドキュメントレベルリストアのデスティネーションフォルダ \(P. 64\)](#)」を参照してください。



6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。

[SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint 2010 Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80#SharePoint - 14704#sites/

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

7. [SharePoint 2010 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスに、ドキュメントレベルのリストアに必要な情報を入力します。
8. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。
9. [OK]をクリックします。
10. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。

11. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。  
サイトコレクションがリストアされます。





# 第 6 章: SharePoint 2007 システムのリストア

---

この章では、SharePoint 2007 システムのデータのリストアについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[リストアの概要 \(P. 73\)](#)

[データベースレベルのリストア セット \(P. 74\)](#)

[SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス \(P. 74\)](#)

[SharePoint 2007 のデータベースレベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 75\)](#)

[データベースレベルのリストアの前提条件 \(P. 78\)](#)

[データベースレベルのデータリストアの実行 \(P. 80\)](#)

[SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 84\)](#)

[SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメントレベル リストアの実行 \(P. 89\)](#)

[SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベル リストアの実行 \(P. 91\)](#)

[Agent for Microsoft SharePoint Server の制限 \(P. 93\)](#)

## リストアの概要

以下のセクションでは、リストアを行う前に満たす必要のある前提条件、CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server の機能、およびデータベースレベルとドキュメントレベルのリストアを行う手順について説明します。

## データベースレベルのリストア セット

SharePoint Server をリストアするには、すべてのセッションをリストアする必要があります。これらのセッションをすべて合わせると、データを完全にリストアできます。これらのセッションを「リストア セット」と呼び、以下のセッションが含まれます。

- フルバックアップ方式のみを使用した場合、リストア セットには、このフルセッションのみが含まれます。
- フルバックアップと差分バックアップの両方を使用した場合、リストア セットには、フルバックアップセッションと1つの差分バックアップセッションが含まれます。たとえば、以下のバックアップシナリオでは、リストア セットはフルと差分 1、フルと差分 2、フルと差分 3、またはフルと差分 4 となります。

フル	差分 1	差分 2	差分 3	差分 4
----	------	------	------	------

- 差分バックアップからリストアする場合、差分バックアップセッションのみを選択する必要があります。CA ARCserve Backup では、前のフルバックアップを自動的に検索してから、フルバックアップおよび選択した差分バックアップのセッションの両方を検索します。

## SharePoint Server 2007 のリストア ローカル オプション ダイアログ ボックス

Agent for Microsoft SharePoint 2007 ダイアログ ボックスのリストア オプションは、データベースレベルのリストア オプションとドキュメントレベルのリストア オプションから構成されています。

詳細情報:

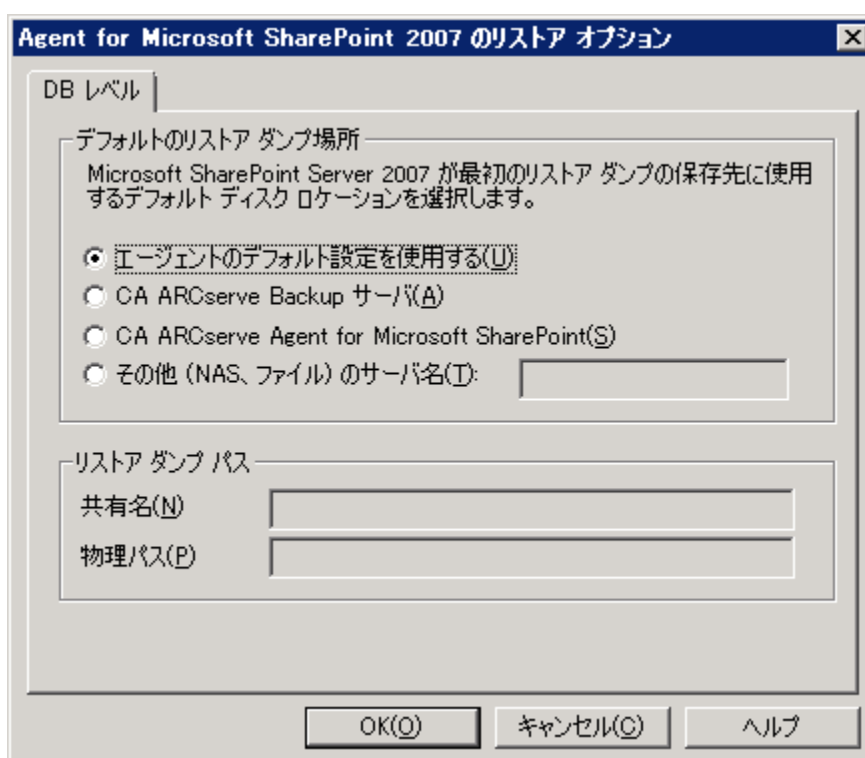
[SharePoint 2007 のデータベースレベル リストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 75\)](#)

[SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス \(P. 84\)](#)

## SharePoint 2007 のデータベース レベル リストア オプション ダイアログ ボックス

リストア ジョブを作成する場合、ジョブをカスタマイズするリストア オプションを指定できます。

データベースレベルのリストア オプションを設定するには、ファーム オブジェクトを右クリックして、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。



[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション]タブには、以下のオプションがあります。

### デフォルトのリストア ダンプの場所

リストアの場所から、CA ARCserve Backup は、SharePoint サーバに保存する前にデータを一時的に保存する場所がわかります。

**注:** リストア オプションを使用してリストアの場所を設定する場合、[Agent 設定]オプションを使用して設定した場所は適用されません。以下のリストア ダンプの場所から選択できます。

- エージェントのデフォルト設定を使用する - デフォルトで有効になっています。このオプションによって、エージェントの設定時に選択した場所を利用できます。
- CA ARCserve Backup サーバ - SharePoint データを CA ARCserve Backup の共有フォルダにリストアします。
- CA ARCserve Agent for Microsoft SharePoint - SharePoint データを SharePoint エージェントがインストールされている共有フォルダにリストアします。
- その他 (NAS、ファイル) のサーバ名 - SharePoint データを NAS サーバまたはファイル サーバ上の指定された共有フォルダにリストアします。

注: IP アドレスではなく、ホスト名を指定する必要があります。

#### リストア ダンプのパス

- 共有名 - デフォルトのリストア ダンプの場所として [その他 (NAS、ファイル) のサーバ名] を選択した場合、データのリストア先のサーバ名を指定する必要があります。フォルダに対する必要な権限が付与されている必要があります。

注: 共有名の末尾には、特殊文字「\$」を使わないでください。

- 物理パス - リストア ダンプの場所として CA ARCserve サーバまたはエージェントを選択した場合は、データのリストア先のパスを指定する必要があります。

これらのオプションと設定方法の詳細については、[「SharePoint システムでのエージェントの設定」](#) (P. 26) を参照してください。

## リストア環境設定

リストア環境設定を指定するには、リストア マネージャの[サブミット]ボタンを使用します。

SharePoint 2007 Agent リストア環境設定

リストア環境設定を選択してください。

リストアの種類

新しい環境設定

同じ環境設定

名前と場所

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80

新しい Web アプリケーション URL:

新しい Web アプリケーション名:

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 80  
#WSS\_Content

新しいデータベース サーバ名:

新しいディレクトリ名:

新しいデータベース名:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

このダイアログ ボックスには、以下の情報が含まれます。

### リストアの種類

リストア後に同じリストア名と場所にすることもでき、別のリストア名と場所にすることもできます。

### ログイン名とパスワード

ファーム、Web アプリケーション、および共有サービス プロバイダにログインできるように設定できます。この機密情報は、データをリストアするのに常に必要です。

### 名前と場所

## データベースレベルのリストアの前提条件

バックアップジョブがリストアされた後に新しい名前または場所になるコンポーネントが1つ以上あるように、名前または場所、またはその両方を設定します。

異なるコンポーネントの環境設定項目は、名前と場所が異なります。以下の表には、コンポーネントと環境設定項目をリストします。

コンポーネントタイプ	環境設定項目	コメント
データベース	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新しいデータベース サーバ名</li><li>■ 新しいディレクトリ名</li><li>■ 新しいデータベース名</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ データベースをリストアする SQL データベース サーバです。これはエイリアス名の場合もあります。</li><li>■ SQL データベース ファイルを保存する新しい物理パスです。</li><li>■ リストア後の新しいデータベース名です。</li></ul>
UserProfileApplication	新しいサーバ名	リストア後の UserProfileApplication の新しい My Site アドレスです。
共有検索インデックス	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新しいサーバ名</li><li>■ 新しいディレクトリ名</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Office 検索インデックス サービスが実行されているコンピュータ名です。</li><li>■ インデックス ファイルが保存されている新しい物理パスです。</li></ul>
Web アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 新しい Web アプリケーションの URL</li><li>■ 新しい Web アプリケーション名</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ Web アプリケーションの Web サイトの URL</li><li>■ IIS に表示される新しい Web アプリケーションの名前です。</li></ul>

## データベースレベルのリストアの前提条件

SharePoint Server 2007 でデータベースレベルのリストアを実行する前に、次の要件を満たす必要があります。

- Windows SharePoint Services Administrative サービスおよび Windows SharePoint Services Timer サービスがすべてのフロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバで実行中であることを確認します。
- スタンドアロンのインストールではタイマ サービスを再起動します。

- 検索サービスおよびインデックスを新しい場所にリストアする場合は、リストアの開始前に検索サービスが実行中であることを確認します。
- Web アプリケーションのすべてのコンテンツ データベースに一意の名前が付いていることを確認します。2 つの Web アプリケーションが同じ名前のデータベースを使用している場合、リストアすると、2 番目のデータベースのデータが最初のデータベースのデータで上書きされます。
- 同時に複数のリストアを実行しないようにしてください。
- ファーム内のすべてのサーバが同じタイムゾーンおよび夏時間を使用していることを確認してください。
- スタンドアロン インストールでは、リストア ジョブを実行する前に、以下のアカウントをローカルの管理者グループに追加してください。リストア ジョブが完了したら、これらのアカウントを削除してください。
  - NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE
  - NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

#### ローカルの Administrators グループにアカウントを追加する方法

1. [コントロール パネル] - [管理ツール] - [コンピュータの管理] - [システム ツール] - [ローカル ユーザーとグループ] - [グループ] - [Administrators] を選択します。
2. [追加]をクリックします。
3. 「NETWORK SERVICE」および「LOCAL SERVICE」と入力します。
4. [OK]をクリックします。

## データベースレベルのデータリストアの実行

CA ARCserve Backup でバックアップ マネージャを使用し、データベースレベルのデータリストアを実行します。

**重要:** コンテンツ データベースの名前はすべて一意にしてください。コンテンツ データベースをリストアする前に、そのデータベースの名前が他の Web アプリケーションで使用されていないことを確認してください。[セッション単位]方式を使用してコンテンツ データベースをリストアする際、同じデータベース名が 2 つの異なるアプリケーションで使用されていると、データベースのリストア ジョブは「成功」と表示されますが、2 番目のアプリケーションでデータベースの内容を上書きしてしまいます。

### SharePoint Server 2007 データベースをリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホーム画面の[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。

[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。

2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。

**注:** データベースレベルのリストアでは [ツリー単位]と [セッション単位]の両方がサポートされています。





Microsoft SharePoint 2007 Agent の下 - データベースレベルのノードに複数のファーム オブジェクトがあることがあります。

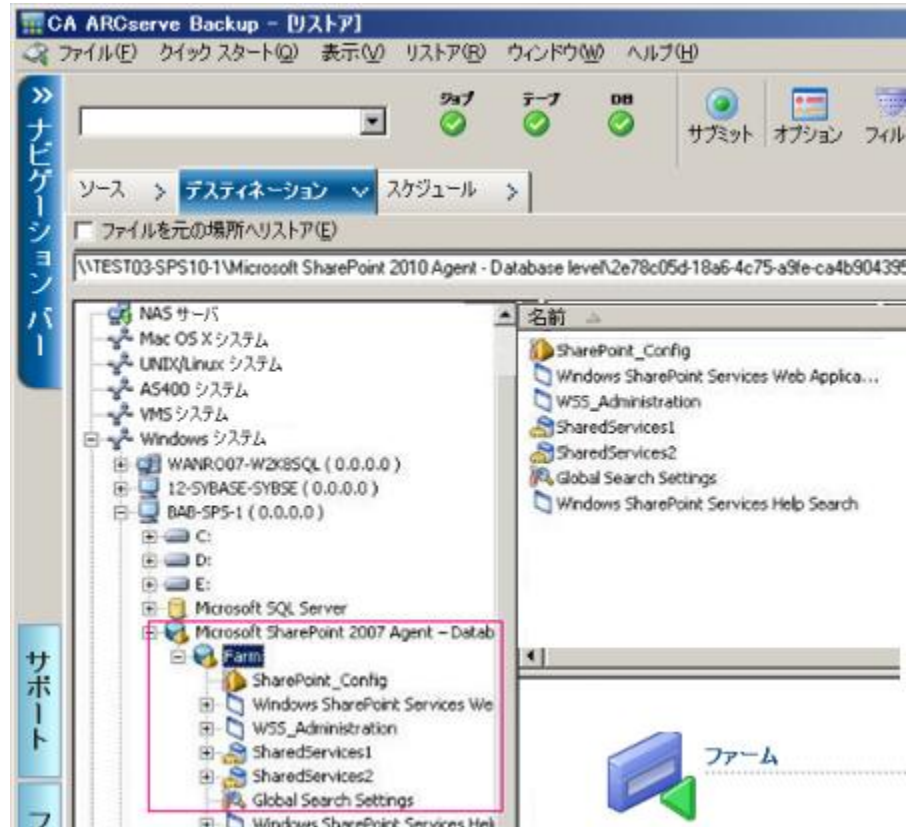
シングル バックアップ ジョブのファームの下で複数のコンポーネントを選択する場合、複数のファーム オブジェクトが表示されます。各ノードは、バックアップする選択されたコンポーネントと関連付けられます。たとえば、Web アプリケーションおよび SharePoint プロバイダ サービスを選択する場合は、2 つのファーム オブジェクトが生成されます。1 つのファーム オブジェクトには Web アプリケーションがあり、もう 1 つのファーム オブジェクトには SharePoint Provider サービスがあります。

同じファームまたはコンポーネントを複数回バックアップする場合は、このコンポーネントの最新バックアップを表示するファーム オブジェクトのみが表示されます。

3. ディレクトリツリーから、[Windows システム]オブジェクトを展開して、バックアップしたデータベースを含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. リストアするバックアップが最新のバックアップでない場合は、リストアする復旧ポイントセッションを選択します。
5. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。リストア オプションの詳細については、「SharePoint 2007 のデータベース (75P. )レベルのリストア オプション ダイアログ ボックス」を参照してください。
6. [デスティネーション]タブをクリックします。データベース オブジェクトは元の場所(デフォルト)、または別の場所にリストアすることができます。

- 別の場所にリストアする場合、[ファイルを元の場所にリストア]チェックボックスをオフにして、[Windows システム] オブジェクトを展開し、リストア先のサーバを展開し、[Microsoft SharePoint 2007 - データベースレベル]オブジェクトを選択します。

注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。



- ツールバーの[サブミット]をクリックします。[リストア環境設定]ダイアログボックスに必要な情報を入力します。

別の場所にリストアする場合、[セキュリティ]ダイアログボックスが表示された後で、リストア先のサーバのユーザ名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

9. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

注: ユーザ名は以下のフォーマットで入力する必要があります。

<ドメイン>\*<ユーザ名>

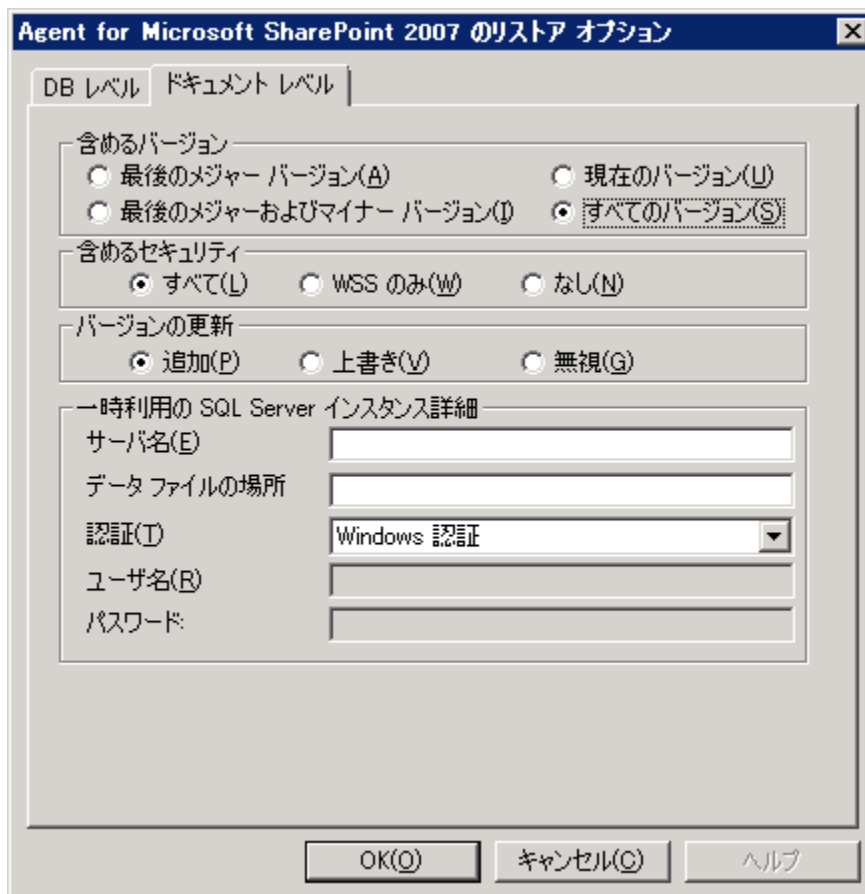
10. [OK]をクリックします。
11. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
12. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。

**重要:** リストアの実行後、Internet Information Services (IIS)を再起動する必要があります。

## SharePoint 2007 のドキュメントレベルのリストア オプション ダイアログ ボックス

ドキュメントレベルのリストア ジョブを作成する場合、[ドキュメントレベル]タブを使用してリストア オプションを指定し、ジョブをカスタマイズすることができます。

ソースを選択し、[エージェント オプション]をクリックします。[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。[ドキュメントレベル]タブを選択し、オプションを設定します。



[Agent for Microsoft SharePoint 2007 のリストア オプション]ダイアログ ボックスには、以下のオプションが含まれます。

### 含めるバージョン

ドキュメントバージョンに基づいてどのコンテンツをリストアするかを指定します。

- 最後のメジャー バージョン - 最後のメジャー バージョンのコンテンツを含めます。
- 最後のメジャーおよびマイナー バージョン - 最後のメジャーおよびマイナー バージョンのコンテンツを含めます。
- 現在のバージョン - 最新のバージョンのコンテンツを含めます。
- すべてのバージョン (デフォルト) - すべてのバージョンのコンテンツを含めます。

#### 含めるセキュリティ

ユーザおよびセキュリティグループ情報がリストアされるかどうかを指定します。

- すべての (デフォルト) - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

また、DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報が含まれます。

- WSS のみ - ユーザ メンバシップおよび役割の割り当てを含めます。これには、「Web デザイナ」などの標準の役割と、標準の役割を元に作成されたカスタムの役割が含まれます。各オブジェクトの ACL がマイグレートされます。

DAP または LDAP サーバに定義されたユーザ情報は含まれません。

- なし - ユーザまたはグループ情報はマイグレートされません。

#### バージョンの更新

リストア時にリストア先でバージョン管理がどのように行われるかを指定します。

- 追加 (デフォルト) - デスティネーションのバージョンに追加します。
- 無視 - バージョン管理を無視して、更新されたファイルをインポートします。
- 上書き - 既存のバージョンを削除し、新規バージョンとしてインポートします。

#### 一時利用の SQL Server インスタンス詳細

SQL Server インスタンスにエージェントを接続します。

- サーバ名 - SQL Server のホスト名およびインスタンス名です。

- データファイルの場所 - この場所は、データベースバックアップ ダンプを SQL インスタンスにリストアする際にデータベースファイルの保存場所として使用されます。これは、SQL インスタンスをホストするサーバ上のローカルパスである必要があります。また、既存のパスを指定する必要があります。

**注:** SQL Server インスタンスには、データファイルの場所へのアクセス権限がある必要があります。

- 認証 - この SQL インスタンスの認証の種類です。SQL Server への接続に使用する認証の種類を選択します。
- Windows 認証 (デフォルト) - 接続に使用するユーザ名およびパスワードを入力できます。
- SQL Server 認証 - SQL Server 認証モードです。ログインおよびパスワードを入力する必要があります。

**注:** 一時利用の SQL Server のバージョンは、Microsoft SharePoint データベースサーバのバージョンと同じである必要があります。

## [SharePoint 2007 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックス

別の場所へのドキュメントレベルリストアを実行する際には、[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスを設定する必要があります。

リストア マネージャの[デスティネーション]タブを選択した後、ツールバーの[サブミット]をクリックします。[SharePoint 2007 Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスが開きます。

SharePoint 2007 Agent リストア環境設定

以下のパラメータは、サイト コレクションのリストア時に必要である場合、空のサイト コレクションを作成するために使用されます。

サイト コレクション

Farm#Windows SharePoint Services Web Application#SharePoint - 10002 #WSS\_Content\_10002#

デスティネーション サイトのフル URL:

所有者のログイン:

所有者の電子メール:

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

以下のパラメータの情報を入力する必要があります。

### デスティネーション サイトのフル URL

サイト コレクションのリストア先のデスティネーションを指定します。

### 所有者ログイン

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

### 所有者電子メール

新しいサイト コレクションの所有者の詳細を指定します。

デスティネーション サイト コレクションが存在しない場合、このユーザ アカウントを使用してデスティネーション サイト コレクションを作成できます。

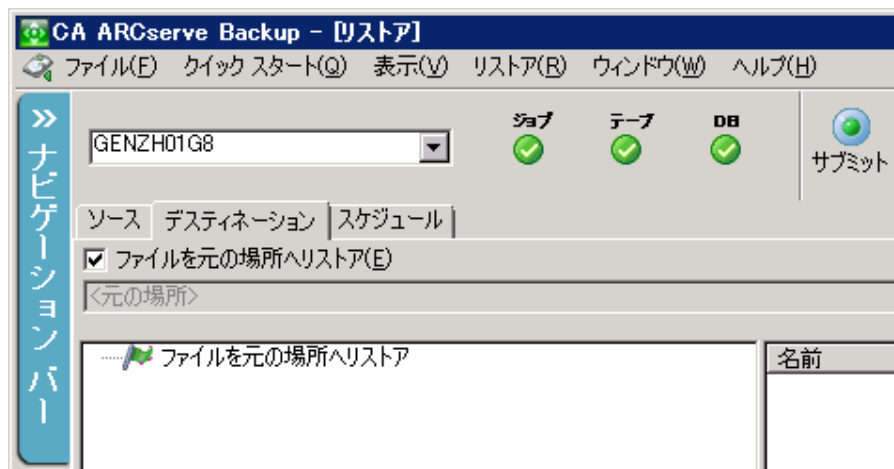


## SharePoint 2007 の元の場所へのドキュメントレベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメントレベルのデータ リストアを実行します。

### サイト コレクションを元の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。  
[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下の子コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックします。元の(デフォルト)場所へデータベース オブジェクトをリストアできます。



6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。
7. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。

[OK]をクリックします。

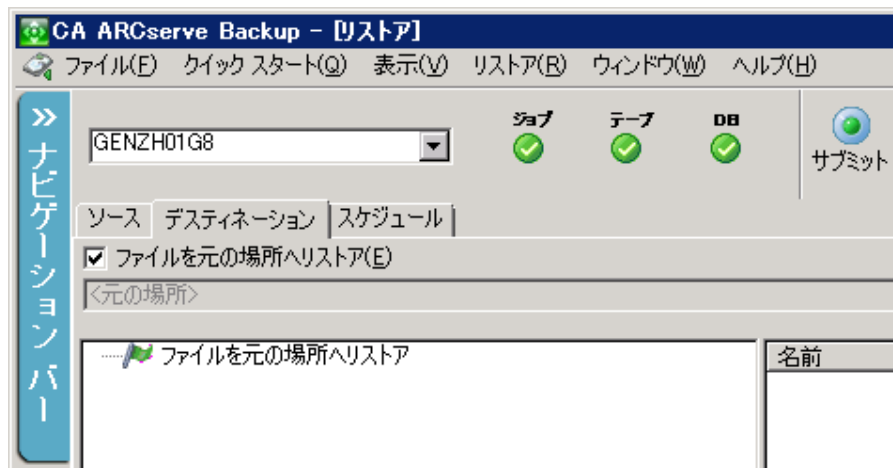
8. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
9. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。  
サイト コレクションがリストアされます。

## SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベル リストアの実行

CA ARCserve Backup でリストア マネージャを使用してドキュメントレベルのデータ リストアを実行します。

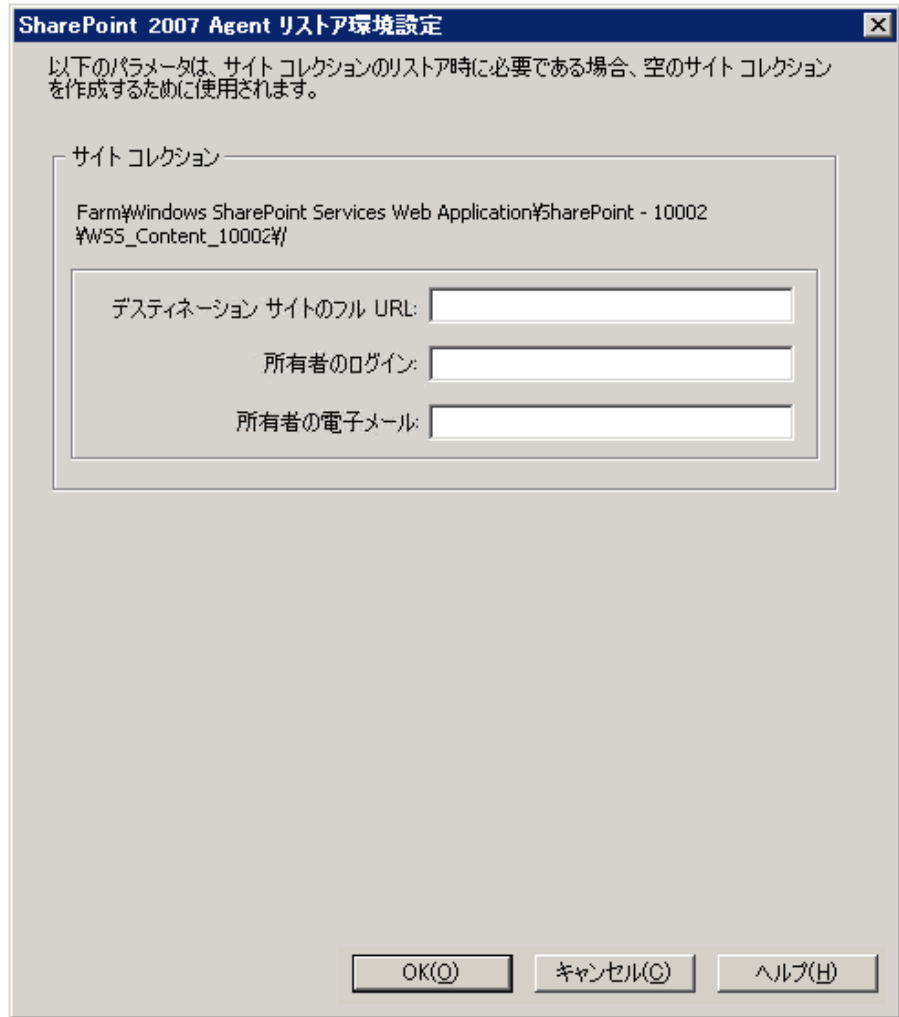
### サイト コレクションを元の場所または別の場所へリストアする方法

1. CA ARCserve Backup ホームページで、[クイック スタート]メニューから[リストア]を選択します。  
[リストア マネージャ]ウィンドウが開きます。
2. [リストア マネージャ]ウィンドウから、[ソース]タブのドロップダウンリストで [ツリー単位]を選択します。
3. ディレクトリ ツリーから、Windows システム オブジェクトを展開し、データベース ノードの下の子コレクション、サイト、リストおよびリスト項目を含むファームを展開し、ファーム オブジェクトを選択します。
4. このジョブに含める各ファーム オブジェクトを右クリックし、[エージェント オプション]を選択してリストア オプションを選択します。
5. [デスティネーション]タブをクリックし、デスティネーションとしてファーム オブジェクトを選択します。別の場所の詳細については、「[ドキュメントレベル リストアのデスティネーション フォルダ \(P. 64\)](#)」を参照してください。



注: 別の場所にリストアする場合は、リストア先としてファーム オブジェクトを選択する必要があります。

6. ツールバーの[サブミット]をクリックします。[リストア環境設定]ダイアログボックスに必要な情報を入力します。



7. [セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開いたら、リストア先のユーザ名とパスワードを確認または変更します。ユーザ名やパスワードを変更するには、セッションを選択し、[編集]ボタンをクリックします。変更を行い、[OK]をクリックします。  
[OK]をクリックします。
8. [ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開きます。[即実行]を選択して今すぐジョブを実行するか、[実行日時指定]を選択してジョブを実行する予定の日時を選択します。
9. ジョブの説明を入力し、[OK]をクリックします。  
サイトコレクションがリストアされます。

## Agent for Microsoft SharePoint Server の制限

Agent for Microsoft SharePoint Server は、SharePoint システムのドキュメントレベルまたは詳細レベルのリスト処理の一部を実行できません。このエージェントでは、以下をリストアすることはできません。

- 環境設定またはアプリケーション データ。そのため、Web アプリケーションまたはアプリケーション ページ用に開発されたバイナリはリストアできません。
- カスタマイズされたサイト定義、リスト定義、コンテンツ タイプ定義、フィールド定義。
- アラート、監査証跡、変更ログ履歴、チェックイン/チェックアウト状態のアイテム、ごみ箱のアイテム、ごみ箱の状態、セキュリティ状態、ワークフロー タスクおよびワークフロー状態。
- 外部 BLOB ストア (EBS)。
- 別の場所への調査リストなどのリスト項目。調査全体のリストアのみ実行できます。
- ルート Web サイト。
- チーム ディスカッションおよび PKI リストなどの項目バージョン。
- DB レベルのリストアの実行中に管理サイトの下で作成されたドキュメント。

### 他の制限

- ファイルに 1 つしかバージョンがなく、それがチェックアウト状態の場合、エージェントはこのファイルをリストアできません。
- リスト/サイト/サイト コレクションの元の場所へのリストアでは、ごみ箱からリスト項目をリストアしません。ただし、以下の手順を実行してリストアを試行することができます。
  - a. サイトレベルおよびサイト コレクションレベルの両方でごみ箱を空にします。
  - b. これらのリスト項目を別々にリストアします。

注: リストにはドキュメントライブラリが含まれません。

- 2 つの異なるドメイン間ではセキュリティ設定の互換性がないため、あるドメインから別のドメインにリストアすることはお勧めしません。

**重要:** オブジェクト、リスト項目やフォルダ、リスト、または **Web** を元の場所にリストアする場合、オブジェクトの親の場所が存在することを確認する必要があります。

# 第 7 章：推奨事項

---

このセクションでは、SharePoint 2007 システムで caab> Agent for Microsoft SharePoint Server を使用する際の推奨事項について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[適切な場所の選択方法 \(P. 95\)](#)

[ダンプの場所へのアクセス権の設定 \(P. 96\)](#)

## 適切な場所の選択方法

バックアップおよびリストアの両方にとって適切な場所を選択する必要があります。以下の考慮点が適用されます。

- ディスク上の空き容量 - The Agent for SharePoint 2007 は、バックアップおよびリストア中にダンプの場所でデータを保存します。バックアップするコンポーネントすべてを保持するのに十分なディスク容量があることを確認します。バックアップ ジョブに必要なディスク容量を確認したい場合は、バックアップ マネージャを開いて、バックアップするコンポーネントを選択して、必要なディスク容量を確認します。

必要なオブジェクト ディスク サイズ	3,318,633,869 バイト
--------------------	-------------------

- 使用可能なネットワーク帯域幅 - ネットワークトラフィックおよびかかるコストによって、差分ダンプの場所の使用可能なネットワーク帯域幅を選択する必要があります。以下の点を考慮してください。
  - CA ARCserve Server は、データを 1 度だけ転送するため、あまりコストがかかりません。
  - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン) およびその他 (NAS、ファイル) のサーバ名は、データを 2 度転送することがあるので、コストがかかります。
- ARCserve Server および SharePoint 2007 Agent の場所 - CA ARCserve SharePoint Agent (ローカル マシン) およびその他の (NAS、ファイル) のサーバ名は、以下の 4 つのシナリオをすべてサポートします。
  - エージェントおよびサーバは、1 つのウィンドウドメインにインストールされます。
  - エージェントおよびサーバは、2 つの異なるドメインにインストールされ、ドメインはもう 1 つのドメインを信頼します。
  - エージェントおよびサーバは、異なる Windows ドメインにインストールされ、信頼関係はありません。
  - エージェントまたはサーバの片方がワークグループにインストールされ、もう片方はドメインにインストールされます。

注: CA ARCserve Server は、上記の最初の 2 つのシナリオのみをサポートします。

## ダンプの場所へのアクセス権の設定

以下の表内のアカウントは、共有フォルダにアクセスできます。

アカウント	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権	バックアップに関するダンプの場所のアクセス権
データベース サーバの SQL アカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
タイム サービス アカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	読み取り権限
セントラル管理プール アカウント	フルコントロール以外のすべてのアクセス権	フルコントロール以外のすべてのアクセス権



データベースサーバの SQL アカウントがローカル システム上にある場合は、必要な権限を SQL サーバコンピュータに付与する必要があります。共有フォルダへのアクセス権を割り当てられているユーザを確認したい場合は、バックアップマネージャを開き、アカウントを選択して、共有フォルダへのアクセス権のあるユーザのリストを確認します。

バックアップリスト 共有フォルダ権限 ユーザリスト	Arthur (Arthur-W35-2)
---------------------------------	-----------------------



# 付録 A: エージェントによって使用される Microsoft SharePoint Server の機能

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft SharePoint Server 2010 の機能](#) (P. 100)

[Microsoft SharePoint 2010 データ](#) (P. 101)

[Microsoft SharePoint Server 2007 の機能](#) (P. 103)

[Microsoft SharePoint 2007 データ](#) (P. 104)

## Microsoft SharePoint Server 2010 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2010 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings
- Secure Store Service
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Web Analytics Web Service
- People
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Excel Calculation Service
- Word Conversion Service
- Access Service
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Managed Metadata Web Service Proxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Word Conversion Service
- Search Service Application Proxy Collection
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Office SharePoint Server State Service Proxy
- InfoPath Forms Services
- Visio Graphics Service
- Search Service Application

## Microsoft SharePoint 2010 データ

Agent for Microsoft SharePoint Server は、以下の SharePoint データのバックアップをサポートします。

- SharePoint Server ファーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search Settings
- Secure Store Service
- Secure Store Service Application
- Office SharePoint Server State Service
- Managed Metadata Web Service
- Managed Metadata Service Application
- Web Analytics Web Service
- Web Analytics Service Application
- Web Analytics Stager Database
- Web Analytics Warehouse Database
- People
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplication
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcService
- Business Data Catalog Service Application
- Excel Calculation Service
- Excel Services Web Service Application
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service Application
- Access Service
- Access Services Application
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.Administration.UserProfileApplicationProxy

- Microsoft.Office.SecureStoreService.Server.SecureStoreServiceProxy
- Secure Store Service Application Proxy
- Managed Metadata Web Service Proxy
- Managed Metadata Web Service Application Proxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceProxy
- Microsoft.Office.Server.WebAnalytics.Administration.WebAnalyticsServiceApplicationProxy
- Word Conversion Service
- Word Conversion Service Application
- Search Service Application Proxy Collection
- Search Service Application Proxy
- Microsoft.SharePoint.BusinessData.SharedService.BdcServiceProxy
- Business Data Catalog Service Application Proxy
- Office SharePoint Server State Service Proxy
- State Service Application Proxy
- InfoPath Forms Services
- InfoPath Forms Services Settings
- Data Connections
- Form Templates
- Exempt User Agents
- Visio Graphics Service
- Graphics Service Application
- Search Service Application
- Administration Database
- Property Database
- Crawl Database

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメントライブラリ、シングルサインオン(暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。

ファイル システムのバックアップを使用して、フロントエンド Web サーバに保存されている設定ファイルおよびカスタマイズしたテンプレートを保護する必要があります。エージェントは、以下のファイルに対するサポートは提供しません。

- IIS (Internet Information Server) メタベース
- SharePoint の拡張仮想サーバ ルート ディレクトリ
- カスタム Web パート アセンブリ
- カスタムの SharePoint テンプレートおよび構成ファイル
- SharePoint サイトで使用されるすべてのアドオン ソフトウェア

これらの情報は、CA ARCserve Backup Client Agent for Windows を使用して完全に保護できます。このエージェントの使用についての詳細は、「Client Agent ユーザ ガイド」を参照してください。

## Microsoft SharePoint Server 2007 の機能

エージェントでサポートされる SharePoint Server 2007 ファーム コンポーネントは以下のとおりです。

- Web Application
- SharePoint Services Provider (関連する検索インデックスを含む)
- Single Sign-On (SSO) database
- Windows SharePoint Services Help Search
- Global Search settings

## Microsoft SharePoint 2007 データ

Agent for Microsoft SharePoint には、Windows システムが必要です。以下の SharePoint データのバックアップがサポートされています。

- SharePoint Server ファーム
- Web Application
- Web Application コンテンツ データベース
- Single Sign-On データベース
- Windows SharePoint Services Help Search
- Shared Services Provider
- Shared Services Provider コンテンツ データベース
- Global Search Settings

注: このガイドでは、後方互換性ドキュメントライブラリ、シングル サインオン(暗号化キー コンポーネントのみ)、および検索インデックスは、データベース以外のデータとして分類されており、SharePoint データベースのデータと区別しています。



# 付録 B: 惨事復旧

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[SharePoint 2010 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法 \(P. 105\)](#)

[SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法 \(P. 106\)](#)

## SharePoint 2010 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティング システムをリストアします。CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「*CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option ユーザガイド*」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint 2010 が必要です。
3. 以下を考慮してください。
  - スタンドアロン サーバ - Microsoft SQL Server 2008 Express
  - 単一サーバファームのデータベース サーバ - SQL Server 2008 Express
4. ファーム全体を復旧する場合は、Microsoft SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジーの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
5. 新規ファームを作成した後は、バックアップ操作を開始する前に、すべてのバックアップ サービスが SharePoint 2010 Central Admin で実行されていることを確認してください。

## SharePoint 2007 システム上でのデータベースレベルの惨事復旧の実行方法

ファーム内の 1 つ以上のコンピュータがクラッシュすると、ファーム全体またはいくつかのコンポーネントが破損することがあります。障害が発生した場合は、以下の手順に従って SharePoint 2007 データをリストアする必要があります。

1. コンピュータ上のオペレーティング システムをリストアします。CA ARCserve Backup Disaster Recovery Option は、これらの手順を自動化するオプション製品です。詳細については、「*Disaster Recovery Option ユーザガイド*」を参照してください。
2. 必要なアプリケーションが操作できることを確認します。SQL Server は、Microsoft SQL Server がインストールされているコンピュータ上で実行する必要があります。フロントエンド Web サーバおよびアプリケーション サーバには、SharePoint 2007 が必要です。
3. ファーム全体を復旧する場合は、SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを使用して新しいファームを作成する必要があります。SharePoint 製品とテクノロジーの詳細については、Microsoft のドキュメントを参照してください。
4. 新しいファームを作成した後で、以下のサービスが SharePoint 2007 Central Admin で実行中であることを確認します。
  - Windows SharePoint Services Help Search、Office SharePoint Server Search、および Excel Calculation Services for SharePoint 2007 Farm
  - Windows SharePoint Services 3.0 Farm 用の Windows SharePoint Services Search
5. 新しいファームがスタンドアロン設定の場合は、デフォルトの共有サービスプロバイダ (SharedService1) の名前を、元のファームに存在しない新しい名前に変更する必要があります。リストアの実行後、共有サービスプロバイダを削除できます。
6. ファームまたはそのコンポーネントをリストアします。データベースを SharePoint 2007 にリストアする方法については、「データベース (80P.) レベルのデータリストアの実行」を参照してください。

# 付録 C: Microsoft SQL Server のセキュリティ設定

---

この付録では、CA ARCserve Backup 用に Microsoft SQL Server のセキュリティを設定する方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Microsoft SQL 認証の種類 \(P. 107\)](#)

[認証要件 \(P. 107\)](#)

[Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更 \(P. 108\)](#)

## Microsoft SQL 認証の種類

Microsoft SQL Server には、次の 2 種類のユーザ認証方法が用意されています。

- Windows ログイン認証を使用する方法
- Microsoft SQL Server 固有のユーザ認証を使用する方法

Microsoft では可能な限り Windows 認証のみを使用するよう推奨していますが、Microsoft SQL Server 認証の方が適切な場合や、Microsoft SQL Server 認証が必要な場合があります。たとえば、データベースがクラスタで実行されている場合には、Microsoft SQL Server 2000 または 2005 の Microsoft SQL Server 認証を使用する必要があります。クラスタの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

## 認証要件

Microsoft SQL Server 認証を使用する場合は、管理者権限を持つユーザアカウントを指定する必要があります。デフォルトでは、Microsoft SQL Server によって管理者権限を持つ「sa」というアカウントが作成されます。ただし、Agent for Microsoft SharePoint Server では、同等の権限を持つアカウントであるならどれでも使用できます。

Windows 認証を使用している場合、データベースが実行中のマシンに対して管理者と同等の権限を持つアカウントは、通常そのデータベースに対するシステム管理者アクセス権限を持っています。

**注:** Microsoft SQL Server の BUILTIN\Administrators ログイン エントリが削除されているか、このエントリに管理者権限が含まれていない場合、または管理者権限を持たないユーザ用の別の Microsoft SQL Server ログイン エントリがある場合は、そのデータベースに対するシステム管理者権限が Windows 管理者またはドメイン管理者に自動的に付与されることはありません。

## Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更

CA ARCserve Backup を使用して、Microsoft SQL Server 認証方法を確認または変更することができます。

### Microsoft SQL Server の認証方法の確認と変更の方法

1. Microsoft SQL Server を実行中のシステムで、Microsoft SQL Server Enterprise Manager を開きます。
2. [ツリー]ペインで[コンソール ルート]を展開して、該当するデータベース サーバを見つけます。
3. そのサーバ名を右クリックしてドロップダウンリストから[プロパティ]を選択します。  
[プロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。
4. [プロパティ]ダイアログ ボックスで[セキュリティ]タブをクリックします。
5. [認証]フィールドで、以下のオプションからいずれかを選択します。

#### Microsoft SQL Server および Windows

Microsoft SQL サーバベースの認証を有効にします。

#### Windows のみ

Windows ユーザ名とパスワードのみを有効にします。

6. [OK]をクリックします。  
ユーザ認証処理が設定されました。

# 付録 D: トラブルシューティング

---

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server を使ったバックアップやリストアに関する問題のトラブルシューティングには、以下の情報が用意されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[AE9972 \(P. 109\)](#)

[サイト コレクションを元の場所へリストアできない \(P. 110\)](#)

## AE9972

イベント OnRestore において、AE9972 オブジェクト <Component Name> の失敗エラーを受信した場合は、以下のタスクを実行してください。

1. Windows SharePoint Services Administration として表示される SPAdmin Windows サービスを開始します。
2. SharePoint 3.0 Central Administration Web サイトにアクセスし、[Operations] - [Topology and Services] - [Services on Server] を選択します。
3. エージェント マシン サーバを選択し、[Custom] ラジオ ボックスを選択します。
4. [Central Administration] をクリックします。
5. [Start] をクリックします。
6. 失敗したジョブを再実行します。

## サイト コレクションを元の場所へリストアできない

サイト コレクション URL を削除すると、削除された元の場所へサイト コレクションをリストアしても失敗します。

以下の手順を実行します。

1. 別の場所へのリストアを実行します。
2. 元の SharePoint Server を選択します。
3. [Agent リストア環境設定]ダイアログ ボックスに新しい URL を入力し、リストアプロセスを完了します。

詳細情報:

[SharePoint 2010 で別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 \(P. 67\)](#)

[SharePoint 2007 の別の場所へのドキュメントレベルリストアの実行 \(P. 91\)](#)

# 用語集

---

## データベースレベルのバックアップ

データベースレベルのバックアップでは、SharePoint Server 2010 または SharePoint Server 2007 のデータベース ファイルがすべてバックアップされます。これは SharePoint Server の基本的なバックアップであり、ほかのバックアップ方式を使用している場合でも常に使用する必要があります。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧の場合には、データベースレベルのバックアップを使用して SharePoint Server をリストアできます。

## データベースレベルのリストア

データベースレベルのリストアでは、SharePoint Server 2010 または SharePoint Server 2007 のデータベース ファイルがすべてリストアされます。システム障害、データベース破壊、または惨事復旧が発生した場合に SharePoint Server をリストアするために使用します。

## ドキュメントレベルのリストア

データベースレベルのリストアに対して、ドキュメントレベルのリストアは、事前にバックアップされた SharePoint Server 2010 または SharePoint Server 2007 のドキュメントレベルのコンポーネントを選択してリストアするために使用します。





# 索引

---

## S

- SharePoint 2010 のドキュメントレベルリストア  
オプション ダイアログ ボックス - 60
- SharePoint Server 2010 のデータベースレベル  
リストア オプション ダイアログ ボックス - 51
- SharePoint Server 2010 のバックアップ オプショ  
ン ダイアログ ボックス - 32
- SQL Server、認証 - 107

## あ

- 暗号化
  - 暗号化、サポート - 43
- エージェント
  - 環境設定 - 21, 22, 24, 26
  - 機能 - 13
- エージェントの環境設定 - 26

## さ

- 惨事復旧 - 105
- シングル サインオン
  - シングル サインオン、設定 - 17
  - シングル サインオン、データベース - 14, 17

## た

- データベースレベル エージェント バックアップ  
オプション ダイアログ ボックス - 44
- [データベースレベル環境設定] タブ - 22
- [ドキュメントレベル環境設定] タブ - 24